

IPS 5054

13

(1/3)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

REQUEST FORM

INCIDENT - ACCUSED

1946

JUDGE ALBERT WILLIAMS

The undersigned requests the consideration of Document # 5054  
(describe):

**Excerpts from record of evidence of Lt. Roderick Graham Wells -  
Singapore  
(Original record also herewith)**

for introduction in evidence (specify purpose) **As to treatment  
of POW. Class B offense**

*R. J. Davis*

Staff Attorney

*2 May*

1946

7 MAY 1946

TO THE DOCUMENT OFFICER:

The above document has been approved for processing by you  
with changes as follows:

**Stencil -  
70 copies available**

*Albert Williams*

Judge Albert Williams  
Document Control Attorney

By

*Eoy*

Secretary

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

REQUEST FORM

1946

INCIDENT - ACCUSED

JUDGE ALBERT WILLIAMS

The undersigned requests the consideration of Document # 5054(B)  
(describe):

*Excerpts from record of evidence of Lt. Rodenck Graham Wells relating to treatment of POW at Sandakan, & his treatment by Kempei Tai during investigation of alleged offenses and his trial by court martial (8 July 42 - 2 Mar 44). Original affidavit previously submitted # 5054 for introduction in evidence (specify purpose) as to treatment of POW.*

*2nd request form  
Entered*

*Thomas F. Moorme*

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION  
AUSTRALIAN DIVISION

Staff Attorney

7 May 1946

TO THE DOCUMENT OFFICER:

The above document has been approved for processing by you with changes as follows:

*Stenoil & 70 copies available.*

*Albert Williams*

Judge Albert Williams  
Document Control Attorney

By \_\_\_\_\_  
Secretary

GENERAL HEADQUARTERS  
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS  
INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

30 July, 1946

TO: DUPLICATION CONTROL

Attached is Document No. 5054B for \_\_\_\_\_.

Arrange for reproduction of \_\_\_\_\_ copies, in English and 90  
copies in Japanese as follows:

*Ditto*

*"Excerpts from Affidavit by Roderick Graham Wells"*

*MSA*

(NOTE: DO NOT REMOVE FROM ATTACHED MATERIAL)

ローダーリック、ケラハム、ウエールズ」

私はVX二四の二四ローダーリック、ケラハム、ウエールズ」中尉、

オハ師団通信隊勤務、昭和十七年一月五日、二月十五日、

ポールに於て捕虜となりし昭昭和十七年一月五日、二月十五日、

一部としてワルシュ陸軍大佐と共に上船し爾後船によりカン

ダカンに移動し昭和十七年一月十八日サンダカンに到着し

ました。「サンダカンにおいて君はハ哩キヤンパに行つたのか？」

そうです。一晩道一で行きました。あの夜我々はローマカソリック

教會で過しました。我々はあの晩は午後六時に下船しました。

そしてその夜は右ローマカソリック教會で寝ました。翌朝我々は

出発しました。私はサンダカンのキヤンパには昭和十八年一月

七日廿四日まで信度一羊の余を二に居ました。

そのキヤンパにはこの位の人數が居たか？」

私が一員であつた隊は一四九名の人員から成立つて居ました。私が

キヤンパを去る前にはこの總數は約二五〇名に増加して居まし

た。その中には昭和十八年一月廿四日の初めに到着した五〇名の英兵

及び四月にミンガポールより到着した「E」軍として知られる五

濠洲歩兵軍(A、B、C)の五百名も含まれて居ました。

「貴君の滞在十三ヶ月の間死者は何人おられたか？」

「約二、三名でした。」

「何によつてか？」

栄養不良と赤痢それらは脚氣もラカチア又はその様なもの

も含まれて居た。

「貴君達と日本兵とが受け居る食糧の配給に就ては如何に

出来る位置に貴君はあつたか？」

No

1

Doc

5054B

はい、森林部隊 (Wood Party) の當番将校として私は監視兵と緋に食事と取りました。部下に食事と手配してやつてのち、當中に私は監視兵連と一浦に食事とつた。彼等の方が無限に多きを貰つて居た。米も上領で量も多かつた。日本人用の料理も良かった。我々は自分の食物を即席に料理しなけれがふらなかつた。我々には狭い炊事場が4百名に對して、所あつた。付けして、その結果朝人食の一番目の飯は夜半の十二時に敷かれる。食物は一夜中持越されるために朝になるまで新鮮ではありません。日本人は我々には手へられなかつた。鮮魚、野菜、木藪限りない他の御馳走を食べてゐました。宿泊設備は日本人のものであつたか。

英兵は原地民捕虜を收容するための木造小屋を建て、これを針金は約三百五十名の原地民を收容する地域を張り廻らした。築きました。英兵の建てた小屋は下見板張りである。将校の宿泊設備として使用されました。日本兵は下士官及兵卒を收容するためにアタツク小屋を建てた。将校は一小屋に廿名住まされた。小屋は三つの寮室に引切られてゐました。各寮室は廿呎×二呎の広さで十名の將校が宿泊しました。部下は一小屋に四五名から五の名收容されました。此の小屋も初めは我々のより稍々小さく、三つの寮室に区切られておりました。が後に引きりは取除かれました。部屋は清潔であつた。がそれとも善虫がえんちをなつかしや、虫がうつくしてゐた。一夜に百匹捕えるのは容易な事ではなりました。

此れに對するため日本人がうけがを受けましたか。

全別うけません。三度油を入手して戻置しました。



のヤカカによつて週回報告を受け居ました。通信と開設され、彼は  
 私が木林林部隊に手配して置いた。ごまかしを使つてM及びB薬劑  
 ビタミンB1錠、ヨード及び外科用品を少量送つていただきました。  
 「これは貴君によつて秘密に持ち込まれたか？」然り。

「エバード大佐 (Col. Sheppard) とメイソン少佐 (Major Raymond) の  
 要求によつてか？」必ずしもさう言ふ訳ではありません。彼等は我々  
 に接して呉れないかと言つたのであります。若し彼等が他の方法  
 によつてこれらの医薬品を手出出来るものなら、密かに持つて行く  
 必要はなかつたか？」然り。彼等は死物狂ひにそれと云ふ西女と  
 して居ました。そしてこれと云うのはそれだけが唯一の途であり  
 ました。

## 裁判官質問

「日本兵は何か医薬品貯蔵品を供給したか？」否、供給したとは  
 思ひません。私の知る限りでは彼等は供給しなかつた。

「スエエン中佐 (Lt. Col. Stephens) に？」

「貴君達のためには日本兵は何か衛生に關し施したか？」我々自身の  
 ヤカカにより下水管が入られ細道が作られ洗濯用や廢物を棄  
 つるための穴は掘られたのであります。貴君の部下は如何なる

労働に従事したか？」そこへ部隊を移動せしめられたのは日本軍の  
 大飛行場を建設するたのであります。濠洲兵の捕虜はその飛行場建  
 設に使役されたか？」然り、殆んど全部が濠洲の戦争捕虜であり  
 ました。彼等がそこで働いてゐるのを見直し又私自身その労働を  
 しました。筋肉労働か？」然り。竹筋肉が働いた。最初の内は  
 飛行場に働いてゐる者の世話を致しました。

「裁判官に依る」労働時間はどうであつたか



時間は午前8時半から午後5時まででありました。その中、晝食時間  
 が約一時間ありました。そのうち、午前と午後とは一回づつ、約十分の  
 休憩がありました。繰り返しますが、その人も人次第でありました。その  
 十二月を二週いて一定して居りませんでした。ステをミス中佐 (St. Col. Ste  
 Pheens) による「訊問」——「病心には健康な者と同じの給養が子(子  
 くれたが)——敵がら子(くれます)で然し、必し働した者に対して  
 追加給品が子(くれた)時には出来た場合はこれとその地区で  
 公平に分配した。然し、かような事が起る事を防止する為めに即ち  
 労働に従事してゐる者には(られる)量の大体半分の僅かに多い程度  
 の給養を支けてゐた。病院患者にその追加給品が子(られる)事  
 なく、必し働した者には依つて消費される。故に、量、病心は飛行場が  
 必し働した者は收容所(帰る)前に飛行場が料理をし、其處で食  
 べたる。故に、余りません。貴君はそこにおた間、手紙を書いたか？」  
 十二月が昭和十八年—一九四三年—は一面、葉書を書きました。故に、  
 許には届いて居りません。「貴君は手紙を一度も入手しなかつたか」  
 はい。一度も入手しませんでした。「日本兵に対して敬礼をしなれば  
 ならなかつたか？」人としての階級のものに敬礼しなればなりません。  
 だし、その時、皆の者は未だ自分の衣服を持つてゐる事と思ひ、  
 一大部分の者は死んど、何にも持つておりませんでした。中には大分  
 持つて居る人も居りました。私はニヤツニヤツと短パンツニ組、非音中は  
 擦り切れた履きした。故には、用着れるものを持つて居りました。  
 飛行場には必し働してゐる者は深靴を持つて居るか？」否。  
 初めは皆、靴を持つて居りました。昭和十七年—一九四三年—十一月の  
 中、雨期に、酷い水と泥濘が、あつたと沼池の状況であつた  
 ために、靴は全々朽ち果てて、濡れたが、代りは使給されませんでした。

し。右半身の皮が少量、廢物の裏に張修理用に日本兵に支給  
されました。大部分は上部に皮の紐を附けた下駄をはいこき働  
しました。これも自分達の作るものであります。

素足が常働したものとあつたか？」然り相多数の者がさうで

ありました。實際私の滞留の終り頃二五%から三〇%の者が素足

がありました。日本兵の捕虜に対する懲戒方法は如何？」

個人的罪は体刑、然し全員に關係する罪に對しては司令官の

苦心による食料配給の減量、酒保の困鎖及その他の報復で

ありました。肉体的刑罰はど人なものであつたか？」顔面の

平手打、靴で蹴る事及棒で強打することがありました。飛行場

の監視兵は殆んど全部が長さ四呎又は六呎の至一時半の

根棒を持つてゐる。その目的はみそれを使用しました。強打は

屢々行はれたか？」然り「毎日行はれたか？」はい。殆んど

毎日です。貴君は誰が強打されるのを見られた事があるか？」

見ました。誰が誰によつて強打されるのを見られたか？」我々の中で

中心として最も劇しく強打されたのはダーリングトンに就て昨日概略

申し上げました。

ステvens中佐による (Lt Col Stephano)

人が打たれるのを自分で見たか？」否 然し打たれた者を後で

見て強打された跡を見ました。彼の官季氏名は何であ

つたか？」N X 49325 二等兵「ダーリングトン」ニ聯隊

十八大隊所屬です。何時その強打が行はれたか？」昭和十一年

五月三日二月十九日 貴君がみた時「ダーリントンの性能はど人な

りあつたか？」私の見た所では両腕は折れ意識不明で頭

顔腕脚部から出血して居ました。勿論彼は歩けませんでした。

「彼は檻に入られたか」然り 私は檻内の彼を見ました。私が見た時には彼は檻内で縛られておりました。

裁判官による「どんな檻か」長さ五呎に幅四呎の不製の檻で地上より二呎の高く建てられてあり周囲は木製の横木で圍まれ小さな木の屋根がありました。

「意識不明の時にダリーントンはこの檻に入れられたか」そうでありスエウエンス中佐による「ダリーントンは生残ったか」生残りました。

「普通の位の氷の檻の内に入れられたか」一週間又はそれ以上私の知つておますのは一週間でありました。

裁判官による「ダリーントンは檻の中での位の氷を履いたか」

「たつた廿四時間でありました。二四時間経つと彼は憲兵に逮捕されました。私は私自身か後は憲兵若しくは逮捕されるまで彼を再び見ませんでした。」「ステラニス中佐による「その檻は屢々使用されたか」屢々使用されました。十三月間には檻は十三回か十四回使用されたかと思つた。その数は余り確ではありません。

「どの檻の内は一度に何人位入れられたか」或る時などは四人から五人は入れられました。四人は入れられたか。

「向」その他に強打された場合を知つて居るか」アスガット曹長 Serjeant Major Dogood)の強打を見たか」答合 彼は森林隊で私と一緒にたつたが彼は耳を擲られたので右耳の鼓膜を破られました。

「向」彼等はその他如何なる刑罰の方法を用いたか」直立不動であるか」答合 然りです。他人的罪に対して屢々二四時間監視兵の面前に絶對直立不動で立たされました。

「裁判官による」向」君は二四時間も直立不動で立つて居るのを見られたか」答合 裁判官殿見ました。

向貴君は「ホンジジミ」に對して部下が要求されて居るが

ステレンス中佐一階夜間彼等が起立して居るのを見たか

答「見ました。私は部下に情報を受けるために無線電信機を操作して居るので自分の部屋に早朝歩きの帰つて来ることを属すの

りました。数回夜半一、二時頃そこは起立して居るのを見た。そこには彼等を監視して居る衛兵が居るが――存在直接にはあ

ません。彼の彼等は非番監視兵の休憩して居る監視兵の望みの

前に起立されて居るのであります。かゝる絶えが彼等の監視の下に置かれるのであります。――極やその他の事柄に關し日本軍將校

に苦情を申立てたか――申立配りました。向貴君も何か申立てたか

申立配りました。誰に對してか――私はホンジジミに對して部下が要求されて居るが

働、彼等の支給されて居る僅少なる配給履物の同題、衣料の

支給について屢々直接苦情を申立配りました。向貴君は「ホンジジミ」に協約及戦術法規に關し論議したか

答「然り私は彼と實際協商及びそれが我々に對し適用する事についで議論しました」

向彼は何人と答へたか

答「彼は国際法規には興味がないと云々は日本帝國軍人の

一員であるから日本軍規に従つて取扱ひ又處罰を行ふの法と答へました」

他に誰かが彼れに苦情を申出でたか「フレミング少佐」

(Major Fleming) かつたか

ウエルニユ大佐及びニールバートS.M.O大佐が屢々苦情を申立配りました。裁判を殿申し上げるのを止めた事があります。

2/26 クインスマンド大隊のデイ中尉(私は番号を知りません)に對する  
 鞭打に ついてであります。彼は昭和十七年十月に本林林部隊の行  
 政について私を輔佐して居ました。彼と私は作業隊の部下とに相違  
 する苦にも拘らず彼は労働を命ぜられた。私は彼に拒絶する  
 様には申し告し私を亦拒絶しました。彼は私より監視兵の位に  
 居たので木の棒で劇しく擲られました。此の件についてウォルシュ大佐は  
 直接ホジジに苦情を申しました。  
 須賀大佐にも苦情を申し込んだ。

然り須賀大佐は私がそこには居た十二月の間、三四回「カンガ」を  
 訪ねました。その都度食料生活状態、国際法に関する苦情、  
 将校の労務問題に関して苦情を申しました。私がそれに対して  
 彼は常に「それは私の命令だ」と答へました。

裁判長殿は信子手マッケンガイ及ハバグ(Hackenberg and  
 Harvey)の死に關して話され度し

昭和十八年九月四日、八月八日、ダブロー、ウォレス(W. Wallace) 曹長  
 が濠洲州の通信師團の通信兵マッケンジー及ハバグと共には  
 捕せられた。昭和十八年九月十日頃、マッケンジー及ハバグは樹  
 上にあるところを日本監視兵に発見された。その場で射殺されまし  
 た。此件は貴君に報告されたか。

パスコエ、エアース、中尉(St. Pascoe Parcoe)に關し私に情報  
 將校として報告されました。彼は今年七月に死いたしました。彼の  
 所属部隊は濠洲軍歩兵第四戰車隊隊でありました。  
 裁判長による彼等は殺害されたのか。

ハバグは一葉の下に射殺されましたがマッケンジーを殺す時は三四葉  
 西にしました。

「ステフェン中佐ヨル」逃セシタ者ニ対シテハ投獄ヲ宣告セタ  
カール然リ

「裁判長ニヨリ」「ワーレス」ハ捕虜トシテ帰還シナカシカ  
「彼ハ我ノ探偵団体 (Espionage organization) ヲ通  
ジテ豫州ニ帰リマシタ」

「ステフェン中佐」十三名ハ逃セシテ其後逮捕サレタノハ本  
書カ「本情」ニテ、彼等ハ二年ヨリ取長トスル種々期  
間ノ徴役ニ充テラレマシタ

「是等ノ者ガ」アウトラム路獄舎テ苦役ニ従事シテ平ルヲ  
其後見タコトガ「アワタカ」ハ「ボリング」トシテ除ク全部者  
見マシタ、彼等總テ「ホルネ」ニ於テ裁判セタカ

「コクニ於テ」  
「本員會」委員及ビ「マーニ」カ逮捕セタ経過及ビ  
「貴君」裁判ニ就テ話セ「マーニ」ハ昭和十八年

「九四三年」七月ニ「私」昭和十八年七月二十七日ニ「コク」  
「イト」中尉ハ昭和十八年七月二十九日ニ「何」モ逮捕サレシタ  
「私」ガ「カン」カニ「憲」兵隊本部ニ連テ行カレテ訊問ヲ受  
ケマシタ

「ド」ニ「ナ」方法ニ「ヨ」ツタ「カ」  
「マーニ」ハ「私」ハ「憲」兵署有地下室  
ニ二十四時間監禁サレシタソレカラ「彼」ハ「囚」人共カ一日二十

四時間「ブ」通「云」夜ハ「燈」火ニ照テサレテ監視サレシ室ニ移  
サレマシタ

「貴」君モ其室ニ居タ「カ」  
後ニソノ室ニ居リシタソ  
レハ地下室ノ独房カテ三週間程「文」通  
シタリ書イタリ其  
ノ様ヲコト何事モ行ハナイ称ニテ絶テ監視ノ下

過シテカラコトアリマス。私ガ其處ニ居タリ三月間ニ支給サレ  
 タ食料ハ確カ一日ニ食テ米五オスデアリマシタ。一食ハコ  
 ノ半分又ハ少クコブノ四分ニ位米ト豫洲ノ動物ガ  
 食ヘル杯ノ名塩ト干魚ノ頭ヲケテタリソレハ常ニ小魚ノ頭デ  
 シタ。山名塩デモ魚ノ頭デモ量ハ一立オ付ノ半分ヲ越スアトハ  
 アリマセンデシタ。洗濯ハ監視員ノ勝手ノ計ニヨリ許サレマシ  
 タ。食事ハ手摺ニテ喰ベサセラシマシタ。ナリ紙ノ支給アリマセンデ  
 シタ。衣類寢具ハ私ガ其處ニ居タリ三週間看用シタ。封  
 ノ白短パンソレ他ハ何モ配給サレマセンデシタ。履物ハ許サレマセ  
 ンデシタ。

「貴君ハ初期ニ独房ニ居タリカ」最初三週間程。

「貴君ハ此三週間ニ訊問ヲ受ケタカ」一煙ヲ受ケマシタ。

情報ヲ引キ出ス又ハソレヲ試ミル場合ニ用ヒラシタ方法体刑ト

鞭ヲ強打ヨレル拷問デアリマシタ。

「貴君ハ鞭ヲ打タレタカ」然リ。木ヲ打タレマシタ。

私ハニ三度木ヲ打タレマシタ。即製ヲ拷問機ニ亦使用

サレマシタ。私ハ手錠ヲハメラレ、垂木ニ縛リツケラレ、足ハ他ノ垂

木ノ端ニヒク横ゲラレ、四ノ角ニ吹、長サ一本ノ垂木ノ踵ト

踵ノ間ヲ通シテ置クデアリマシタ。膝ト膝ノ間他長イ木

ガ横ゲラレテ居間ニ入、訊問士官ガ膝ノ上ノ垂木ノ両端

ノ上ニ立ッテ絶エズ重層ヲ加テ上下運動ヲ加ヘルデアリマシタ。

「貴君自身ソレヲ苦シメラシタカ」其ノ効果ハ椎木ノ両端

ノ上ニ踵ヲ横ヘ足ノ前部ヲニツケテ膝ヲミダサスコトヨマテ兩

腕又ハ両脚ヲ引キ横ゲテ踵ノ骨ヲ折ランバカリニスルデアリ

マス。是ニヨリ踵ヲ肉ヲ剥列衣クノデアリマス。

「裁判長ヨリ」ソレハ苦痛ヲマツカ。一然リ非序ナ苦痛  
 痛デタ。私ハ僅カニ秒ノ方總ニラハ其後ハ意識不明ニ  
 リマシタ。頭カラ水ヲ一杯カケテテ約十五分後目ヲ覺マシマ  
 シタ。ソコデ訊問ヲ再開セシメタ。

「其カラ傍問ハ一然リ。然レ前ノ方法デハナク木ノ棒ヲ  
 打テ又彼等ノ説明ニヨリト相手ノ記憶ヲ喚起スル爲ニ  
 槊ノ小槌ヲ使用シタ。彼等ハ絶ニ頭部一定場所ヲ  
 小槌テ擲クンデアリマシタ。

「其レ最嚴シカクタカ」一然リ。  
 「其レ痛カクタカ」一非序痛クアリマシタ。

「ステフェニス」中佐ヨリ」一貴君ハ其ノ打擲ヨリ何カ永久性ノ  
 障害ヲ蒙ラタカ。一然リ。頭部ノ木製ノ槌ヲ打  
 レタ結果中耳ヲ破ラテ片方ノ耳ノ聽覺ヲ永久的ニ失  
 ヒマシタ。

「裁判長ヨリ」其ノ刑罰ヲ実行シタハ「誹カ」一慮兵  
 下士官デシタ。

「ステフェニス」中佐ヨリ」貴君ハ米ヲ擲同ヲ受テタカ。一然リ  
 昭和七年(一九四三年)八月十日私ハ一定量ノ玄米ヲ全  
 部食ヘセラレタ後ニ喉ニ管ヲ入レラレテ腔ヲ水デ充滿サ  
 レマシタ。其ノ結果約四時間経テ玄米カ水分ヲ吸收  
 シタ爲メ胃ノ筋肉ヲ異状ニ膨脹ニ拡大セシメマシタ。

「裁判長ヨリ」貴君ハ病氣ニテタカ。一是ハ偶發的デ  
 アリマシタガ私ハ逮捕サレテカヲ二十六日間モ便通ガナカタ  
 ノデアリマス。是ハ主トシテ神経作用食料不足ト打擲ハ  
 爲メデアリマシタ。



此米ヲ胃袋ニ吞ミ込マセシタ後三時間モ再び吐出サウト  
試ミマシタソレ以後ハ水浸シ米ヲ相當量吐出スヨト成功  
シマシタ其残リ反對側ニ出シテ腸ノ中ニテ又相當量  
ノ物ヲ肛門カラ出シマシタ是ハ自分ノ手デレナケレバナラナカッタ  
私ハ医師ノ治療ヲ要求シマシタダ無視サレタ約一週間  
ノ後ハ私ハ全部吐出スツトガ出来マシタ

「ステラエエ中佐ヨル」貴君ハ其處ニ約三月モ居タリカ  
然リ一九四三年（昭和十八年）十月二十五日逆居マシタ其日  
ニフーリエエト私ハテラ一博事人合ム數人ト一緒ニラケレ  
ニ積ニ換ヘラレマシタ我々ハラケレニ昭和十八年十月二日到  
着ニテラケレニ獄舎ニ入レラマシタ

「裁判官ヨル」貴君ハア様ニ坐ルコトヲ強制サレタカ  
然リ憲兵ノ許ヨリ囚人全部ハ訊問サレテ居ル間以  
外ハ定テ又ニテ午前七時半カラ夜十時半マデ坐ラセラマシタ  
「ステラエエ中佐ヨル」貴君自身モソレテ苦シタカ  
其期間ハドノ位カ一其處デ三月ヲケレテ五月ノ  
トラムロードデイ四月半

「ウトラムロード」ニ於テア様ニ坐ラセナラナカッタカ  
然リソレ  
我々ガ勞働ニ年々時ト夜ハ勞働ヲ完了シテ宿舎  
ニ歸ル時カラ十時迄ア様ニ坐ラセバナラナカッタデアリヌ  
「寢ニ就イタ時」ハ身ヲ横タセル事ヲ許サレタカ  
然リ  
但シ之ハ辰ノ寢方ヲシタ場合デアリヌ而モ他人ト話  
ヲシタリニ事ヲ交シタリ他ノ者ニ番圖ヲシタリ私語ニシタリ大  
ルノヲ防止スル爲ニ燈火ガ夜間中消スノ上ヲ照シタ  
「巻煙草ヲ燒カレタ」トガアツカ  
然リ肱ノ上ヲ燒セマシタ

ソレハ一九四三年(昭和十八年)八月九日、十月二日「サダカニ」ニ於テ訊問セラル。間テモ。

「其トモ貴君ハクダシニ移サレタリ。其旅行中ノ状態ト云テ「アノタカ」一泊ト始終手帳ハハラレテキマシタ。ソレテキマシタニ甲板ニ縛テ縛ラレテキマシタ。船ハ「モリス」ト云テ英國ニヨツテ使用サレキタ。泊岸ノ小型汽船テモ。食料ハ憲兵ニ於テセルトテ強ト同一デタ。吾々ハ鉄柵ヲ越エテ来ル技ヲ其他ノ物ニ曝シテキマシタ。全旅程中甲板ニ縛ラレテ居マシタ。旅行ハ十月二十五日ヨリ十一月二日迄續キマシタ。吾々ハ夜晝ニ被覆ヲ持タナカッタ。

「貴君ハクダシニ於テ訊問ヲ受ケタカ。然リ。裁判ヲ待ツ五ヶ月間問題的行ハレマシタ。此ノ訊問期間中憲兵ハ何等ノ詰問モ行ヒマセシテシタ。サレバカニニ於テ憲兵ニヨツテ書キ擧ゲラレタ。陳述書ニ就テ質問ヲ受マシタ。然シ吾々

ヲ監視シテ居タS.S.軍隊ニヨツテ僅少ノ反則ニ對シテモ刑罰ガ課サマシタ。五ヶ月後貴君ハ裁判ニ付セラレタノカ」然ハ。吾々ハ一九四四年(昭和十九年)二月

二十九日ニ裁判ニ付セラレマシタ。軍法會議ノ裁判長ハ誰レデアツタカ」馬場中將デアリマシタ。裁判ノ其他ノ構成員ノ姓名ハ目下記憶ニテ居リマセンガ認知スルコトハ出来マス。

其中ニ訊問將校少佐一名、檢事將校少佐一名ト大尉一名。裁判所書記ト士官一名、及び英一ト和通譯一名。裁判長ヨリ貴君ニ辯護將校ハ與ヘラレタカ」

否興ヘラレマセシテシタ。起訴狀ガ與ヘラレタカ」否興ヘラレマセシテシタ。

「起訴ニ就テ何カ知ラセラレタカ」  
「否、吾々ハ單ニ陳述ニ  
對シテ何ト受ケ、裁判所カ證據ヲ考慮シ後ニ判決ヲ  
下スト知ラセラレタカ」  
「否、吾々ハ單ニ陳述ニ  
對シテ何ト受ケ、裁判所カ證據ヲ考慮シ後ニ判決ヲ  
下スト知ラセラレタカ」  
「否、吾々ハ單ニ陳述ニ  
對シテ何ト受ケ、裁判所カ證據ヲ考慮シ後ニ判決ヲ  
下スト知ラセラレタカ」

「下士官及兵卒ヲ除ク皆ノ者ニ對シテ刑ノ言ヒ渡シガアリタシタ  
マニシト私ハ四十八時間モ未決ノ儘取り殘サレ、其ノ單  
ハ時ノ間ニ我々ハ死刑ノ宣告ヲ待チツマアルガト憲兵ニヨリ  
知ラレタシタ。一九四四年（昭和十九年）三月二日ノ朝、マニシト  
ズ、私及ビ三人ノ下士官及兵卒ハ法廷ニ連シ出サレテ判決  
ヲ言ヒ渡サレタシタ。」

「裁判長ニヨリ貴君ハ有罪ヲ認メタカ  
我々ハ些細ナ罪ニ就テハ原地民カ證據ヲ提出シタ為メ  
ニ認メナケレバナリタセシテシタ。然シ憲兵ニヨリ作成サレタ  
ル陳述ハ多ク、場合故意ニヨル事實ノ詐稱デアリマシ  
タ。」「ステレンス中佐ニヨリ」  
「ソレ等ノ陳述ハガサカニ於  
ケル憲兵ニヨリ書取ラレタカ」  
「然リ。」

「然リ。オ一人稱テ書イテ  
ソレ文字書ニヨル陳述デアッタカ」  
「然リ。」  
「アリマシタ。」「日本文字テ書イテアッタカ」  
「然リ。」  
「貴君ハソレニ署名シタカ」  
「吾々ハ署名シナケレバナリマ  
セシテシタ。」「貴君ガソレニ署名シタ時ニ何カ書カレテアツ  
タカ知ツテ居タカ」  
「續行サレタ訊問ニヨリソレ等ノ  
大要ハ續ツタガ彼等ハ實際ニハ吾々ニ讀ミ上ガテ吳  
レマセシテシタ。」「貴君ガ署名スル前ニソレヲ翻譯ニテ吳  
レタカ」  
「否。」「裁判長ニヨリ」  
「貴君ハ四罪科カ何シデアツ  
タカ知ラナイカ」  
「否。」  
「貴君カ有罪デアッタカ否カ」  
「知ラナイカ」  
「否。」  
「ステレンス中佐ニヨリ」  
「サシガカニ  
ニ於テ日本語テ書取ツタ陳述書ハ其後裁判所即

「ステレンス中佐ニヨリ」  
「サシガカニ  
ニ於テ日本語テ書取ツタ陳述書ハ其後裁判所即

ナ馬場中將ニ提出サレタカ——然リ。貴君ハソレニ就テ  
 訊問ヲ受ケタカ——受ケマシタ——ドニ于風ニ行ハレタ也——  
 例ヲ與ケマス。↓ソノ言葉ヲヤシ知ツテ井マシタノテ言ハレタ  
 中デ或ル事ハ分リマシタ。通譯ガ英語デ質問シタノニ付シ  
 私ハ「違ヒマスソウデハアリマセニト答ヘマシタ。私ハ彼ガ裁  
 判官ニ日本語デ然ウデス其通リテ区ト返事ヲスルノヲ聞  
 キマシタ。「裁判長ニヨル」マ——マ——ウスハ貴君ト一緒ニ裁カ  
 レタカ——然リ。貴君ハ「マ——マ——」裁判中始終其處ニ居ツ  
 タカ——居リマシタ。彼ハ彼ガドニ事デ起訴サレタカヲ知  
 ツテ居タカ——否。彼ハ罪名ヲ知ラセラレルコトヲ要求  
 シタカ——然リ。彼ハ辯護人ヲ要請シタカ——然リ  
 両者共ニ却下サレタカ——然リ。彼ハ死罪ヲ宣告サレタ  
 ノカ——然リ。貴君ソノ宣告ヲ聽イタカ——然リ。  
 誰ガソレヲ宣告シタカ——馬場中將

「ステレン又申佐ヨリ」通譯ハ誰デアツタカ——私ハ彼ノ  
 名前ハ知リマセンカ彼ヲ認知スルコトが出来マス。

「裁判長ニヨル」通譯ハ「マ——マ——」言ツタ事ヲ何カ詐稱  
 レタカ——私ハ知リマセン。其當時私ハ充分ナ知識ヲ  
 持ツテ居マセニテシタ。若シ彼ガ私ニ言ツタ事ヲ詐稱シテ  
 カツトニテモ、私等ガ主張シタ事案ノ否認ヲ彼等ガ  
 無視シタ事ハ明カデアリマシタ。彼等ハ單ニソレヲ言紡  
 レテハノ指由ニ移ルノデアリマシタ。我々ノ否認ハ考慮ニ  
 ハレラレセシテシタ。我々ハ單ニ憲兵ニヨリテ書キ上ケラシ  
 タ。証據ニヨリ我々がソレヲ否認シヨウカスマイハ關係  
 ナス裁カレマシタ。

「マーニエズ」ハ死刑ヲ宣告サレタガ貴君ハ其宣告ガ執行  
サレタカ又ドチ方法テ何時行ハレタカ知ツテナルカ」  
「私ガ信ジテナル限りテハソレト九四四年（昭和十九年）三月  
二月午前十時頃デアリマシタ。

「裁判長ニヨル」有罪ト決定ニテドノ位経ツテカ」  
「刑ノ宣告後約一時間テシタ、馬場ニヨツテカ」  
「然リ、」ステスエエ中佐ニヨル」「マーニエズ」大尉ヲ最後  
ニ見タ時ハ何時デアツタカ」  
「彼、与死刑ノ約  
十分前デシタ。私ハ其時マデ裁判ヲ通シテ彼ト  
一緒ニ居リマシタ。

「裁判長ニヨル」「處刑ノ方法ハ何デアツタカ」  
「私ノ知ル限りデハ彼ハ銃殺サレマシタ。私ガ裁判所ヲ  
去ツタ時ニ約八名ノ銃殺班ガ彼ヲ待ツテ居マシタ。

「貴君ハ銃聲ヲ聞イタカ」  
「聞キマシタ。私ガ獄舎ノ  
方ニ行ク途中遠方ニ聞エマシタ

「ソレハ一回ノ一斉射撃デアツタカ」  
「申ヒゲルノハ困  
難デス。私ハ一ニ哩モ離レテ居リマシタ。

「ソレハ裁判所ノ方角デアツタカ」  
「裁判所ヨリ約百  
ヤード離レタ羅馬」キヤソリック」教會堂ノ方向デシタ。  
彼ハ教會ノ裏テ處刑サレタト信ジマス。

「貴君ハソノ方面カテ銃聲ノ来ルヲ聞イタノカ」  
「然リ、其ノ場所デ射撃が行ハレル

他ノ理由ガアツタカ」  
「然リ、

八人ノ原地住民モ亦 團體及ビ裁判ニ関係シテ  
其ノ朝上處刑サレマシタ。其ノ中ノ三人ハ欧亜人ノ混血

兒デアリマシタ。

貴君ハソレヲ見タカ、又ハソレニ

就テ聞イタカ、彼等ハ吾々が宣告サレル前ニ宣

告ヲ受ケマシタ。彼等ハ銃殺ヲ宣告サレタト我々ニ知ラ

セマシタ。日本人カラノ情報ノミニ因リ、彼等ハ

マリーニユースカト處刑サレル十五分カ三十分前ニ刀劔デ

殺サレマシタ。

貴君ハ死刑ヲ宣告サレタノデアウタカ、否、十二年ノ

重労働徴役ヲ宣告サレマシタ。

「ステフェニス」中佐ニヨル、貴君ハ「ヨシ」ガホール、「ウトラム

路獄舎ニ行ク以前ニ「ク」ニ於テ其後トノ位過シタカ

——私ハ裁判ヲ受ケテ六日後ノ三月八日ノ夕刻

出發シマシタ。

「裁判長」貴君ハ質問書ニ於テ述ベタ事、總テ報

告シタカ、「キートイニング」ニ就テ何モ述ベナカッタ。ハナ

イカ、——述ベマセシデシタ。

彼ニ就イテ何カ知ツテ居ルカ

「キートイニング」ハ九月ノ重病ノ後ニ「ク」チンデ死亡

シマシタ。日本人ハ彼ノ療養ニハ殆ド何ノ努力カモ拂

ヒマセシデシタ。

彼ノ死ニ際マデ、一緒ニ居タ。英領地「ホルネオ」ノ

首席軍醫將校「コ」博士ハ、彼ノ死ハ全ク

日本人ノ怠慢ト彼等ノ打擲ニヨルモノダト言ヒ

マシタ。

DOCUMENT DIVISION

8-6 1946

MIMEOGRAPH SECTION is requested to \_\_\_\_\_

DOC. NO. 5054B

requested by Harvey in \_\_\_\_\_

, No. of pages \_\_\_\_\_

No. of copies 20

COMPLETED:

Date \_\_\_\_\_ Signature \_\_\_\_\_

VAULT:

Date 8/6 Signature RPB

This receipt with two copies of this document attached to go to  
Room 347, Lt. Alexander.

ローダーリック、グラハム、ウエールズ」

私はVX四の二四ローダーリック、グラハム、ウエールズ」中尉、

オハ師団通信隊勤務、昭和十七年一月九日、二月十五日、

ポールに於て捕虜となりました。昭和十七年一月四日、七月八日、B軍の

一部と「ワルシエ」陸軍大佐と共に上船し、爾後船により「サン

ダカン」に移動し、昭和十七年一月九日、七月十八日、サンダカンに到着し

ました。「サンダカン」において君はハ哩キヤンパに行つたのか？」

そうです。一晩過しに行きました。あの夜我々はローマカソリック

教會で過しました。我々はあの晩は午後六時に下船しました。

そのその夜は右ローマカソリック教會で寐ました。翌朝我々は

出發しました。私はサンダカンのキヤンパには昭和十八年一月四日、

七月廿四日まで、恰度一年の余りに居ました。

「そのキヤンパにはどの位の人数が居たか？」

私が「貴」であつた隊は一四九名の人員から成立つて居ました。私が

キヤンパを去る前にはその總勢は約二五〇名に増加して居まし

た。その中には昭和十八年一月四日の初めに到着した五〇名の英兵

及び四月にミンガポールより到着した「E」軍として知られるもの

渡洲歩兵一連(A、B、E)の五百名も含まれて居ました。

「貴君の滞在十三ヶ月の間死者は何人おたか？」

約三、三名でした。

「何はよつてか？」

栄養不良と赤痢それらは脚気もラグラフ又はその類のもの

も含まれて居た。

「貴君達と日本兵とが受け居る食糧の配給に就て比較が出来る位置に貴君はあつたか？」

Doc 5054B

Not used

No 1



はい、森林部隊 (Wood Party) の當番將校として、私は監視兵と一緒に食事ととりましの部下に食事を手配してやつてのち、常に私は監視兵達と一緒に食事とつた彼等の所が無限に多々貰つて居た米も上償で量も多かつた日本人用の料理も良かった。我々は自分の食物を即席に料理しなければならなかつた。我々には強い炊事場が4五百名に對して4所あつたわけでした。その結果朝食の一番目の飯は夜半の十二時に炊かれる。食物は一夜中持越されるために朝になると余り新鮮ではありませんでした。日本人は我々には手へられなかつた。鮮魚野菜數限りない他の御馳走を食つておりました。宿泊設備はどんなものであつたか。

兵兵は原地民捕虜を收容するために木造小屋を建ててはして針金は約三百五十名の原地民を收容する地域と張り廻が張りました。兵兵の建てた小屋は下見板張りである。將校の宿泊設備として使用されました。日本兵は下士官及兵卒を收容するためにアトツア小屋を建てた。將校は小屋に世名住みました。小屋は三つの寢室に引切られておりました。各寢室は五吹X三の吹の広さで十名の將校が宿泊しました。部下は小屋に四五名から五の名を收容されました。此の小屋も初めは我々のよりは精々小さく三つの寢室に区切られておりました。が後に引きりは取除かれました。部屋は清潔であつたがそれとも害虫がええちをぬかひ虫や鼠がうごめくしてゐた。一夜は百匹捕えるのは容易な事ではないです。

No 2  
此れは毒である。日本の日本人から何か手受けたか。  
全無うけません。三、三度は油を入手して處理しましたか。

それは全然我々の力に依るものでありました。御承知の通りこれら<sup>の</sup>虫と木造家屋より根絶する事は、<sup>も</sup>困難でありました。水<sup>の</sup>供給はどうかあるだろうか?」水<sup>の</sup>供給は戦時勃発前英口の統治の下に二百五十名から三百名に暮らす設備が出来ておりました。日本の統治になつてからはそれが五百名に好する水の供給が行はれまして、その結果水の供給は非効率に制限され又者一掃しなければ飲用水には使えません。水は常に割當で与えられました。若しその設備の維持が私の間接的統制の下に置かれてなかつたならば供給は全と絶たすに事であったらば、日本兵は工具と子(たが)、「全然(全)へいれませんか?」我々の部下の技師等が少量を所持して居る。我々の部下と此の供給の維持及び電気設備において働いて居る者が道具を持参しました。原住民が彼等自身のネジ廻しや金槌をとつて来て我々の部下と此に水道電気業務の復旧に援助した実例を知つておます。衣服についてはどうか?」私が去るまで衣服の支給はありませんでした。日本兵は医療用品を多く給予した。私の知る限りでは皆無でありました。確かは事を知りません。彼等はキーツを極少量支給したかも知れませんが、これはつき証言をなし得る他の医者は居なかつたか?」ロクトリヤ生地のハインズ大尉 (Capt. Hynde) が多時とに居た。民間人の医者は居なかつたか?」英領北ボルネオの軍医「ドクター・テイラー博士 (D. P. Taylor) が居ました。同氏はミドニー大島出身です。彼は他の民間人の残留者と共に抑留され、宣誓を解放されて彼の病院に帰入されておりました。我々の探偵組織 (Espionage System)

の努力にどうも週回報告を受け居ました。通信と開設を以て彼等は  
私が森林部隊に手配して置いた。ごまかしを便つてM及びB薬劑  
ロタミン 日鏡 ヨード及び外科用品を少量送つてくれました。

「これは貴官にどうも秘密に持ち込まれたか？」 然り。  
「シールド大佐 (Col. Sheppard) とメイソン大佐 (Major Raymond) の  
要求にどうもか？」 必ずしもさう言ふ訳ではありません。彼等は我々  
に接して品大抵ないかと言つたのであります。若し彼等が他の方法  
によつてこれらの医薬品を入手出来るものなら、密かに持つて行く  
必要はなかつたか？」 然り。 彼等は死物狂ひにわれを以て  
して居ました。そしてこれをするのはそれだけが唯一の途であつたのであり  
ます。

裁判官質問

「日本兵は何か医薬品貯蔵室を供給したか？」 否、供給したとは  
思ひません。私の知る限りでは彼等は供給しなかつた。

「メイソン中佐 (Lt. Col. Stephens) に？」

「貴君達の目的は日本兵は何か衛生に用したか？」 我々自身の  
体力はより下水管が入れられ細道が作られ洗濯用や廢物を棄  
つたための穴は掘られたのであります。 貴君の部下は如何なる

労働に従事したか？」 そこ（部隊を移動せしめる）のは日本軍の

大飛行場を建設するにありました。濠洲兵の捕虜はその飛行場建  
設に使役されたか？」 然り、殆んど全部が濠洲の戦争捕虜であり

ました。彼等がそこで働いてゐるのを見たりし又私自身その労働を  
しました。筋肉労働が？」 然り。筋肉労働が働いた。最初の内は  
飛行場に働いてゐる者の世話を致しました。

「裁判官に依る」 労働時間はどうであつたか

時間は午前と時半から午後5時まででありました。その中、晝食時間  
 が約一時間ありました。そして屢々午前と午後と一回づつ、約十か月の  
 休憩がありました。繰り返します。が、その人も人次第でありました。その酷さは  
 十二月と通じて一定して居りませんでした。ステインス中佐 (St. Col. Ste  
 Pheens) による「訊問」——病人には健康な者と同じの給養が与えら  
 れたか——敵からは「与えませんでした。然し、此方働した者には、  
 追加給品が与えられた時には出まわった場合はこれと同等の地で  
 公平に分配した。然しかような事が起る事を防止する目的に即ち  
 此方働に従事してゐる者には、(与えられる量の大体半分以上) 僅かに多量程度  
 の給養を授けられた。病院患者はその追加給品が与えられた事  
 なく、此方働した者には従つて消費される物は、見一箇は飛行場が  
 此方働した者は收容所(帰る前に飛行場が料理をし、其處で食  
 べたる物はと食ひました。貴君はそこにおられた間、手紙を書いたか？」  
 十二月が昭和十八年—一九四三年—は一面に書かれた。貴君は「  
 許には居いて居りません。」「貴君は手紙を一度も入手しなかつたか？」  
 はい。一度も入手しませんでした。」「日本兵に対して敬礼をしなければ  
 ならなかつたか？」「全ての階級のものに敬礼しなければなりません。  
 此方働した時、日の者は未だ自分の衣服を持ってゐた事と、田舎の  
 大部分の者は知人どほにも持つておりませんでした。中には太刀  
 持ち居る人も居りました。私はニヤツニヤツと短パンツツと、非営中は  
 擦り切れ居ました。靴とは、用着のものを持つて居りました。  
 飛行場には此方働してゐる者は深靴を持って居たか？」「否。  
 初めは皆、靴を持って居ましたが、昭和十七年—一九四三年—十一月の  
 第一雨期に、酷い水と泥濘が、ずつと沼池の狀態であつた  
 ために靴は全々朽ち果てて、新しい靴は支給されませんでした。

した。数件牛の皮が少量、廢物の裏を強修理用に日本兵に支給  
された。大部分は上部に皮の紐を附けた下駄といふか、働  
きました。これも自分達の作ったものであります。

「素足で労働したものとあつたか？」 然り、相当数の者がさつこ  
てありました。實際私の滞留の終り頃ニ五%から三%の者が素足  
でありました。日本兵の捕虜に対する懲戒方法は如何？」

「個々の罪は体刑然し全員に關係する罪に對しては司令官の  
苦心による食料配給の減量、酒保の閉鎖、及その他の報復で

ありました。肉体的刑罰はどんなものであつたか？」 顔面の  
平手打、靴を蹴る事、及棒で強打することでありました。飛行場

の監視兵は殆んど全部が長さ四呎、高さ一呎の至一時半の  
棍棒を持つてゐることの目的のみそれを使用しました。強打は

屢々行はれたか？」 然り。毎日行はれたか？」 はい。殆んど  
毎日です。貴君は誰が強打されるのを見られた事があるか？」

「見ました。誰が誰にどう強打されるのを見られたか？」 彼々の中で  
恐らく最も劇しく強打されたグリーンゲトンに就て昨日 概略

申し上げました。  
ステインス中佐による (Lt Col Stephens)

「人が打たれるのを見られたか？」 否。然し打たれた者を後で  
見て強打された跡を見ました。彼の官季、氏名は何であ

つたか？」 NX49325 二等兵「グリーンゲトン」ニ聯隊  
十八大隊所屬です。何時その強打が行はれたか？」 昭和十一年

五月三十一日十九日。貴君がみられた時、グリーンゲトンの本能はどんな  
であつたか？」 私の見た所では両腕は折れ、音意識不明で頭

顔腕、脚部から出血して居ました。勿論彼は歩けませんでした。

「彼は檻に入られたか」然り 私は檻内の彼を見ました。私が見た時には彼は檻内を縛られておりました。

裁判官による「どんな檻か」長さ五呎に幅四呎の木製の檻が地上より二呎は高く建てられてあり周囲は木製の横木で囲まれ小さな木の屋根がありました。

「意識不明の時にグリーンコートはこの檻に入れられたのか」そうです。ステイテンス中佐による「グリーンコートは生残つたか」生残りました。

「普通どの位水と檻の内に入られておるか」一週間又はそれ以上私の知っているものは一週間でありました。

「裁判官による」グリーンコートは檻の中どの位水と居たか」

「たつた廿四時間でありました。二四時間経つと彼は憲兵に逮捕されまして私は私自身か後は憲兵に逮捕されるまで彼を牢が見ました。ステイテンス中佐による「その檻は屢々使用されたか」屢々使用されました。十三ヶ月間に檻は十三回か十四回使用されたかと思うがその数は余り確かありません。

「どの檻の内に一度は何人位入られたか」或る時などは四人から五人は入られておりました。四人は入れられて居ました。

「尚」その他に強打された場合を知つて居るか」アスケット曹長 Serjeant Major Dogood)の強打を見たか」は、彼は森林隊と私と一緒にたつたが彼は耳を擲られたので右耳の鼓膜を破られました。

「尚」彼等はその他如何なる刑罰の方法を用いたか」直立不動であるか」は、然ります。他人的罪に対して屢々二四時間を監視兵の面前に絶對直立不動で立たされました。

「裁判官による」尚」君は二四時間も直立不動で立つて居るのを見たか」は、否。裁判官殿見ました。

向ては長期であることか、どうですか

ステレンス中佐「昨夜彼等が起立して居ると見えたか」

答「見ました。私は部下に情報を入る戸のには無線機や信筒を操作して居るので自分の部屋に早朝歩きの帰つて来るのが見えたか」

「それは彼等を監視して居る衛兵が居たか」答「直接にはありませんでした。彼等は非番監視兵の休憩室に居る監視兵の窓の前」

前に起立されて居るのであります。極やその他の事情に因り日本軍捕虜に苦情を申立てたか」

向貴君も何か申立てたか」

「誰に對してか」私はホシジミに對して部下が要求されて居る苦情、彼等の支給されて居る僅少な配給、履物の問題、衣料の支給について屢々直接苦情を申立てました」

向貴君は「ホシジミに協約及戦術法規に關し論議したか」

答「然り私は彼と實際協商及びそれが我々に対し適用する事について議論しました」

向「彼は何人と會合したか」

答「彼は国際法規には興味がないと云々は日本帝國軍人の一員であるから日本軍規に従つて取扱ひ又處罰を行ふの」と答へました」

他に誰かが彼等に苦情を申出たか」

「Major Fleming) かつたか」

「マクドナルド大佐及びバート S.M.O 大佐が屢々苦情を申込まれた」

裁判長「殿申上げるのをご存知な事がありますか」

2/26 グインズランド大隊のデイ中尉(私は番号を知りません)に對する  
鞭打についてであります。彼は昭和十七年十月に本森林部隊の行  
政について私を輔佐して居ました。彼と私は作業隊の部下を指揮す  
る善にも均すが彼は労働を命ぜられた。私は彼に拒絶する  
様に入告し私を拒絶しました。彼は私よりも監視兵の近々に  
居たので木の棒で劇しく擲りました。此の件についてウォルシュ大佐は  
直接ホジジミに苦情を申入りました。  
須賀大佐にも苦情を申入りましたが  
然り須賀大佐は私がそこには居た十二月の間、三四回サングカンと  
訪ねました。その都度食料生活状態、国際法に関する苦情、  
併校の労務問題に関する苦情を申入りました。がそれに対して  
彼は常に「それは私の命令」と答へました。

裁判長殿は信子手マッケンガイ及ハーパー工(Mackenzie and  
Harvey)の死に關して話され度し

昭和十八年九月四日、ガブローウウォールズ(W. Wallace) 監獄  
が濠洲和八通信師團の通信兵マッケンジー及ハーパー工に  
対して、昭和十八年九月十一日頃、マッケンジー及ハーパー工は樹  
上にあるところを日本並複兵に発見されその場で射殺されまし  
た。此件は貴君に報告されたが、

パスコーエとエアース中尉(Cpt. Pascoe Pearce)に於り私に情報  
併校と報告されました。彼は今年七月に死しました。彼の  
所属部隊は濠洲軍歩兵第四戰車聯隊であります。この  
裁判長による彼等は殺害されたのか、

No 9  
ハーパーは一帯の下に射殺されましたがマッケンジーを殺す時は三四帯  
要しました。



「ステフェン中佐ヨル」逃亡シタ者ニ対シテハ投獄ヲ宣告セタ  
カー」然リ

「裁判長ニヨリ」「ワリス」ハ捕虜トシテ帰還ニカフカ  
「彼我ノ探偵団体 (Espionage organization)」ト通  
シテ豫洲ニ帰リマシタ。

「ステフェン中佐」トシテ名カ逃亡シテ其後逮捕サタノ本  
「膏」本情テス。彼等ハ六年ヨリ取長トスル種々期  
間ノ徴役ニ充ルセラマシタ。

「是等ノ者ガ」アウトラム「路獄舎」テ苦役ニ従事シテキルヲ  
其後見タコトガ「アウタカ」ハ「ハリント」ヲ除ク全部者  
見マシタ。彼等總テ「ホルネ」ニ於テ裁判サタカ  
「クナニ」於テデス

「本員會」ニ貴君及ビ「マー」ニ「エ」ガ逮捕サタ経過及ビ  
貴君ノ裁判ニ就テ話セ「マー」ニ「ハ」昭和十八年  
（一九四三年）七月ニ「二月」私「昭和十八年七月二十日」ヨ  
「ト」中尉ハ昭和十八年七月二十九日何モ逮捕サレマシタ  
私「サンダ」ニ「憲兵」隊本部ニ運送行カテ訊問ヲ受  
ケマシタ。

「ド」ニ「方法」ニ「ヨ」タカ「マー」ニ「ト」私「憲兵」署地下室  
ニ二十四時間監禁サレマシタソレカラ彼ハ囚人共ガ一日二十  
四時間「通」之。夜ハ燈火ニ照ラサレテ監視サレ室ニ移  
サレマシタ。

「貴君」モ其「室」ニ「格」タノ「後」ニ「ソ」ノ「室」ニ「格」リマシタソ  
レハ地下室ノ「独」房「テ」三週「間」程「文」通「シ」タリ書イタリ其  
ノ様「コト」何事「モ」行ハ「ナイ」称「ト」絶「エ」テ監視ノ下

過シテカラフトアリマス。私ガ其處ニ居タ三月間ニ支給サレ  
 タ食料ハ確カ一日ニ食テ米五斗ニテアリマシタ。一食ハコ  
 フアノ半合又ハ小イコフブノ四分ニ位ノ米ト豫洲ノ動物カ  
 食ル様ノ名塩ト干魚ノ頭ヲケデシタ。ソレハ常ニ小魚ノ頭デ  
 シタ。山名塩デモ魚ノ頭デモ量ハ一斗ノ半分ヲ越スルコトハ  
 アリマシテシタ。洗濯ハ監視員ノ勝手ノ計ヒヨリ許サレシ  
 タ。食事ハ手摺ニテ喰ベサレマシタ。ナリ紙ノ支給アリマシテ  
 シタ。衣類寢具ハ私ガ其處ニ居タ三週間看用シタ。對  
 ノ白短パンノ他ハ何モ配給サレマシテシタ。糧物ハ許サレセ  
 ニテシタ。

貴君初期ニ独房ニ居タカ。最初三週間程。

貴君此三週間ニ訊問ヲ受ケタカ。屢ニ受ケタシタ。

情報ヲ引キ出ス又ハソレヲ試ミル場合ニ用ヒラシタ方法ハ体利ト  
 鞭ヲ強打ヲスル拷問デアリマシタ。

貴君ハ鞭ヲ打タタカ。然リ。木ヲデモ打タレマシタ。

私ハニ三度木ヲ打タレマシタ。即製ヲ拷問機ニ亦使用

サレマシタ。私ハ手錠ヲハナシ、垂木ニ縛リツケラレ、足ハ他ノ垂

木ノ端ノ上ニ横ゲラレ、四寸角ニ吠ノ長サノ一本ノ垂木ハ踵ト

踵間ヲ通シテ置クデアリマシタ。膝ト膝間他長イ木

ガ横ゲラレテ居間ニ下ノ訊問士官ガ膝ノ上ノ垂木兩端

ノ上ニ立ツテ絶エズ重壓ヲ加テ上下運動ヲ加ヘルデアリマシタ。

貴君自身ソレヲ苦シムシタカ。其ノ効果ハ椎木ノ兩端

ノ上ニ踵ヲ横ヘ足ノ前部ヲエニツケテ膝ヲミゲサスコトヨクテ兩

腕又ハ両脚ヲ引キ擴ゲテ踵骨ヲ折ヨシハカリニスルデアリ

マス。是ニヨクテ踵ヲ肉ヲ引キ裂クデアリマス。

「裁判長ヨリ」ソレハ苦痛ヲマツカセテ然リ非痛ヲ苦痛  
 痛デテ私ハ僅ク秒ヲ堪テ其後ハ意識不明ニテ  
 リマシタ。頭ヲ水ヲ一杯カキテ約十五分後目ヲ覺マシマ  
 シタ。ソコデ訊問ガ再開サレシタ。

「其レカラ務問」然リ。然レ前ノ方法アリタク木ノ棒ヲ  
 打テ又彼等ノ説明ニヨリト相手ノ記憶ヲ喚起スル爲ニ  
 槓ノ小槌ヲ使用シタ。彼等ハ絶テ頭部ノ一定ノ場所ヲ  
 小槌ヲ叩クテアリシタ。

「其レハ激シカク」然リ。  
 「其レハ痛ク」非痛ヲマツカセシタ。

「ステフェニス」中佐ヨリ「貴君其ノ打擲ヨリ何カ永久性ノ  
 障害ヲ蒙ラシメタ。然リ。頭部ノ木製ノ槌ヲ打テ  
 レタ結果中耳ヲ破ラシメテ方ノ耳ノ聴覺ヲ永スルニ失  
 ヒマシタ。

「裁判長ヨリ」其ノ刑罰ヲ履行シタ。ハ誰カ「慮兵  
 下工官」テシタ。

「ステフェニス」中佐ヨリ「貴君ハ米ヲ擲向テ受テタ。然リ  
 昭和七年(一九四三年)八月十日私ハ一定量ノ玄米ヲ全  
 部食ヘシレタ後ニ喉ニ管ヲ入レテ腔ヲ水ヲ充満サ  
 レマシタ。其ノ結果約四時間経テ玄米ガ水分ヲ吸收  
 シタ爲メ胃ノ筋肉ヲ異状ニ膨脹シテ大ニシマシタ。

「裁判長ヨリ」「貴君ハ病氣ニテタカ」是ハ偶發的  
 「アリマシタガ私ハ逮捕サレテカラ三十六日間ニ便通ガナク  
 ノデアリマス。是ハ主トシテ神経作用食料不足ト打擲ハ  
 爲メデアリマシタ。

此米ノ胃袋ニ谷ミ込マセシタ後三時向モ再ビ吐出サウト  
 試ミマシタソレ以後ハ水浸シ米ヲ相當量吐出ヌト成功  
 シマシタ其残リ反對側ニホシテ腸ノ中ニアタ相當量  
 ノ物ヲ肛門カラ出シマシタ是ハ自分ノ手デレシケレバナラナカク  
 私ノ医師ノ治療ヲ要求シマシタダ無視ガレマシタ約一週間  
 後ニ私ハ全部吐出ヌトガ出未マシタ

「ステラエス中佐ヨル」貴君ハ其處ニ約三月モ居タカ  
 然リ一九四三年（昭和十八年）十月ニ十五日迄居マシタ其日  
 ニ「マール」ニエト私ハテラ「博」ヲ入合ム數人ト一緒ニクク  
 ニ積ニ換ヘラシマシタ我々ハククニ昭和三十八年十月二日到  
 着シテ「クク」ニ獄舎ニ入シラマシタ

「裁判官ニヨル」貴君ハ「マール」ニ坐ルコトヲ強制ガレタカ  
 然リ「憲兵」ノ許ヨリ「囚人」全部ハ訊問ガレテ「居間」以  
 外ハ足ヲ交又シテ午前十時半カラ夜十時半マデ坐ラセラマシタ  
 「ステラエス中佐ヨル」貴君自身モシテ苦シタカ「然リ」  
 「其期間」ハ「囚人」其處デ三月「クク」ニテ五月「ワ  
 トラムロード」デ十四ヶ月半

「ワトラムロード」ニ於テ「マール」様ニ坐ラホナラナカワタカ「然リ」ソレ  
 ハ我々ガ「労働」ニ年々「時」ト夜ハ「労働」ヲ完了シテ「宿舎」  
 ニ歸ル時カラ十時迄「マール」様ニ坐ラサレバナラナカワタカ「マール」  
 「寝」ニ就イタ時ニハ身ヲ「横」タル事ヲ許サタカ「然リ」  
 但レ之ハ「寢」方ヲシタ場合デアリマス而モ他人ト話  
 フレタリ「言葉」ヲ交シタリ他ノ者ニ合圖ヲシタリ私語ニタリ  
 ルヲ禁止スル爲ニ燈火ガ夜間中「消」スノ上ヲ照シタ  
 「巻煙草」ヲ燒カレタ「ポト」ガ「アタカ」然リ「眩」上ヲ燒セマシタ

ソレハ一九四三年（昭和十八年）八月九日十月三日ガカンニ  
於テ訊問セラルル間ナリ。

其トモ貴君ガタチニ移セラレタリ。其旅行中ノ状態トナリ  
テアツカク「殆ド始終手錠ヲ付ケテ居タルソノ時  
ニ甲板ニ縛テ縛ラレテオマシタ。船ハ「ブレイン」トテ英國ニヨツテ  
使用サレタリ。沿岸小型汽船デタリ。食料ハ憲兵  
隊ニ於ケルト殆ド同一デタリ。吾々ハ鉄柵ヲ越エテ来ル被浪  
其他ノ物ニ曝シテオマシタ。全旅程中甲板ニ縛ラレテ居マシタ  
旅行ノ十月二十五日ヨリ十一月二日迄續キマシタ。吾々ハ夜  
晝モ被浪ヲ持タナカシタ。

「貴君ハ「ク」ニ於テ訊問ヲ受ケタカ。然リ。裁判ヲ待ツ  
五月間向歐的ニ行ハレマシタ。此ノ訊問期間中憲兵ハ何  
等ノ詰問モ行ヒマセシテシタ。サレバカニニ於テ憲兵ニヨツテ  
書キ與テラレタ。陳述書ニ就テ詰問ヲ受マシタ。然シ吾々  
ヲ監視ニテ居タS.S.軍隊ニヨツテ僅少ノ反則ニ對シテ  
モ刑罰ガ課サレマシタ。五月後貴君ハ裁判ニ付セラ  
レタカ。然リ。吾々ハ一九四四年（昭和十九年）二月  
二十九日ニ裁判ニ付セラレマシタ。軍法會議ノ裁判長ハ誰レ  
デアツタカ。馬場中將デアリマシタ。裁判ノ其他ノ構成員  
ノ姓名ハ目下記憶ニテ居リマセンガ認知スルコトハ出来ヌ  
其中ニ訊問將校少佐一名、檢事將校少佐一名ト大尉一名  
「裁判所書記ト士官一名、及び英一ト和通譯一名、  
裁判長ヨリ貴君ニ辯護將校ハ與ヘラレタカ」  
否興ヘラレマセシテシタ。

「起訴狀ハ與ヘラレタカ」否興ヘラレマセシテシタ。

起訴ニ就テ何カ知ラセラレタカ  
 否 吾々ハ早ニ陳述ニ  
 対シ有同ヲ受テ裁判所カ證據ニ考慮シ後ニ判決ヲ  
 下スト知ラサレマタ。三十分以内ニ「  
 マーニエト私ハ四十八時間モ未決ノ儘取り殘サシ其申  
 下士官及兵卒ヲ除ク皆ノ者ニ対シ刑ノ言ヒ渡シガアリマシタ  
 マーニエト私ハ四十八時間モ未決ノ儘取り殘サシ其申  
 八時ノ間ニ裁々ハ死刑ノ宣告ヲ待テツ。アレハト憲兵ニヨリ  
 知ラサレマタ。一九四四年（昭和十九年）三月三日朝「  
 マーニエト  
 スハ私及ビ三人ノ下士官及兵卒ハ法廷ニ連レ出サレテ判決  
 ヲ言ヒ渡シレマシタ。裁判長ヨル貴君ハ有罪ヲ認メカ  
 裁々ハ些細ナ罪ニ就テハ原地民カ證據ヲ提出シタ為メ  
 ニ認メナケレバナリマセンデシタ。然シ憲兵ニヨリ作成サレタ  
 ル陳述ハ多クノ場合故意ニヨル事實ノ詐稱デアリマシ  
 タ。ハステア中佐ニヨル「ソレ等ノ陳述ハガサカニ於  
 ケル憲兵ニヨリ書取ラレタカ」然リ  
 「ソレ等ノ書ニヨル陳述デアツタカ」然リカ一人稱テ書イテ  
 アリマシタ。日本文字ヲ書イテアツタカ」然リ  
 「貴君ハソレニ署名シタカ」吾々ハ署名ニナイレバナリマ  
 センデシタ。貴君ガソレニ署名シタ時ニ何か書カレテアツ  
 タカ知ツテ居タカ」續行サレタ訊問ニヨリソレ等ノ  
 大要ハ悟ツタガ彼等ハ實際ニハ吾々ニ讀ミ上ケテ異  
 レマセンデシタ。貴君ガ署名スル前ニソレヲ翻譯ニテ異  
 レタカ」否。裁判長ニヨル「貴君ハ四罪科カ何ンデアツ  
 タカ知ラナイカ」否。貴君カ有罪デアツタカ否カヲ  
 知ラナイカ」否。「ステア中佐ニヨル」サレタカ  
 ニ於テ日本語ヲ書取ツタ陳述書ハ其後裁判所即

ナ馬場中將ニ提出サレタカ「然リ。貴君ハソレニ就テ  
 訊問ヲ受ケタカ」受ケマタ「ドニ行ハレタ」  
 例ヲ與ケマス。「ソノ言葉ヲ知ツテハマシタノテ言ハレタ  
 中デ或ル事ハ分リマシタ。通譯カ英語デ質問ニ答ヘタシ  
 私ハ「違ヒマシムデ」アリマセシト答ヘマシタ。私ハ彼ガ裁  
 判官ニ日本語ヲ然ウテス其通譯ト返事ヲスルヲ聞  
 キマシタ。「裁判長ニヨル」マ「マ」ニ「ハ」貴君ト一緒ニ裁カ  
 レタカ「然リ。貴君ハ「マ」ニ「ハ」裁判官始終其處ニ居ツ  
 タカ「居リマシタ。彼ハ彼カドニ事ヲ起訴サレタカヲ知  
 ツテ居タカ」否。彼ハ罪名ヲ知ラセラレルコトヲ要求  
 シタカ「然リ。彼ハ辯護人ヲ要請シタカ」然リ  
 「兩者共ニ却下サレタカ」然リ。彼ハ此ヲ宣告サレタ  
 「カ」然リ。貴君ソノ宣告ヲ聽イタカ「然リ。  
 誰ガソレヲ宣告シタカ」馬場中將  
 「ステニス申佐ヨリ」通譯ハ誰テアツタカ「私ハ彼ノ  
 名前ニ知ラセシカ彼ヲ認知スルコトガ出来マス。  
 裁判長ニヨル」通譯ハ「マ」ニ「ハ」言ツタ事ヲ何カ詐稱  
 レタカ「私ハ知リマセン。其當時ハ私ハ此ノ事ヲ知  
 持ツテ居マセシタ。若シ彼ガ私ノ言ツタ事ヲ詐稱シテ  
 カツトシテモ、私等ガ主張ニテ事案ノ否認ヲ彼等ガ  
 世視シタ事ハ明カデアリマシタ。彼等ノ事案ニシテ言  
 レテハ「貴君ニ移ル」デアリマシタ。我々ノ否認ハ其ノ  
 ハレラセシテシタ。我々ノ事案ニシテ書キ上ケラレ  
 タ証據ニヨリ我々がソレヲ否認シヨウカスマイハ關係  
 ナク裁クレマシタ。

「マーニエリス」ハ死刑ヲ宣告サレタガ貴君ハ其宣告ガ執行  
サレタカ又ドチ方法テ何時行ハレタカ知ツテ井ルカ」  
私ハ信ジテ午ル限リテハソレ九四四年（昭和十九年）三月  
二日午前十時頃チアリマシタ。

「裁判長ニヨル」有罪ト決定ニテドノ位経ツテカ」  
刑ノ宣告後約一時間向テシタ。馬場ニヨツテカ」  
然リ。「ステアエス中佐ニヨル」「マーニエリス」大尉ヲ最後

ニ見タ時ハ何時デアツタカ」—— 彼、處刑ノ約  
十分前テシタ。私ハ其時マデ裁判ヲ通ジテ彼ト  
一緒ニ居リマシタ。

「裁判長ニヨル」「處刑ノ方法ハ何デアツタカ」——  
私ノ知ル限リデハ彼ハ銃殺サレマシタ。私ガ裁判所ヲ  
去ツタ時ニ約八名ノ銃殺班ガ彼ヲ待ツテ居マシタ。

「貴君ハ銃聲ヲ聞イタカ」—— 聞キマシタ。私ガ獄舎ノ  
方ニ行ク途中遠チカニ聞エマシタ  
「レハ一回ニ齊射撃デアツタカ」—— 申上ゲルノハ困  
難デス。

私ハ「ニ哩モ離レテ居リマシタ。  
ソレハ裁判所ノ方角デアツタカ」—— 裁判所ヨリ約百  
ヤード離レタ羅馬「キヤソリック」教會堂ノ方向デシタ。

彼ハ教會ノ裏テ處刑サレタト信ジマス。  
「貴君ハソノ方面カラ銃聲ノ来ルヲ聞イタノカ」——  
然リ。其、場所デ射撃が行ハレル

他ノ理由ガアツタカ」—— 然リ。  
八人ノ原地住民モ亦 團體及ビ裁判ニ関係シテ  
其ノ朝處刑サレマシタ。其ノ中ノ三人ハ歐亞人ノ混血



見テアリマシタ。

「貴君ハソレヲ見タカ、又ハソレニ

就テ聞イタカ」彼等ハ吾々が宣告サレル前ニ宣

告ヲ受ケマシタ。彼等ハ銃殺ヲ宣告サレタト我々が知ラ

セマシタ。日本人カラノ情報ノミニ因リ、彼等ハ

「マリーニエリスが上處刑サレル十五分カ三十分前ニ刀劔デ

殺カレマシタ。

「貴君ハ死刑ヲ宣告サレタノデアツタカ」否、十二年ノ

重労働懲役ヲ宣告サレマシタ。

「ステフェニス 中佐ニヨル」貴君ハ「ヨシシガホール」ウトラム

路獄舎ニ行ク以前ニ「タチン」ニ於テ其後ドノ位過シタカ

「私ハ裁判ヲ受ケテ六日後ノ三月八日ノ夕刻

出發シマシタ。

「裁判長」貴君ハ質問書ニ於テ述ヘタ事總テ「報

告」シタカ「キートイニング」ニ就テ何モ述ベナカッタデハ十

イカ」述ベマセシデシタ。

「彼ニ就イテ何か知ツテ居ルカ」

「キートイニング」ハ九月ノ市上病ノ後ニ「クーチン」デ死シ

シマシタ。日本人ハ彼ノ療養ニ、殆ド何ノ努力モ拂

ヒマセシデシタ。

「彼ノ死ニ際マデ」一緒ニ居タ。英領北「ホルネオ」ノ

首席軍醫將校「デーラ」博士ハ「彼ノ死ハ全ク

日本人ノ怠慢ト彼等ノ打擲ニヨルモノダト言ヒ

マシタ。

①  
Translated  
by  
HATATE, Kihei  
checked by  
M. SADA YASU  
E. D # 5054  
(B)

ロータリーワグ、グライム、ウエールズ

私はVメー一四〇二四、ロータリーワグ、グライム、ウエールズ中尉、

第八師團通信隊勤務、昭和十七年二月十五日新嘉坡

に於て戦時捕虜となつた。昭和十七年七月八日軍

の一部として「ウルミニ」陸軍大佐と共に上陸、角後船

により「サンダカン」に移動し、昭和十七年七月十八日「サンダカン」

に到着し

「サンダカン」に於て君は八哩キャンプに行つたが、一そつです。

一晩格闘した。あの夜は羅馬カソリック教會が過しました。

我々はあの晩は午後六時、下船しました。あの夜は羅馬

カソリック教會が寤ました。翌朝我々出陣しました。

③

私「ガニガカ」のキヤンフには 昭和十八年七月二十四日迄

哈度 余其に在り

一ヶ年 ~~半~~ 居ました

其のキヤンフには

~~人数~~はどの位居たか

の人数が

~~私「ガニガカ」のキヤンフには~~

一四九〇名の人員から成立つて居

ました。私「ガニガカ」を去る前には 其の總勢は

約

三、五〇〇名に増加しました。

其の中には

昭和十八年の

(一九四三年)

初めに到着した五〇〇名、英兵 及四月「シンガポール」

到着した「E」軍として知られて居た 濠洲歩兵軍

(A、I、F)の五百名も含まれて居ます。

君、滞在十三ヶ月、間死者は何名出たか — 約三十三

三名でした。

③

栄養不良

それは

何によつてか — マラリヤと赤痢、脚氣、コレラ、

又は其の様なものも含まれて居た。

貴人部隊

貴人部隊と日本兵とが受けて居る食糧の配給に就ては

（注）配給に差があるのはあつたから

較加出来るか — はい、木林林部隊 (Wood Party) の當番

將校として、私共も働いて居る。監視兵と一緒に食事を

取りました。司令部下に食事と手配してやつて後常に

私は監視兵と一緒にお前の食事を取つた。

彼等の方が~~監視兵~~監視兵は多く貰つて居る。

~~監視兵は多く貰つて居る。~~米も上質で量も多かつた。

日本人用のは料理も良かつた。我々は自分の食物も

即席に料理しなければならなかつた。我々には狭い

炊事

料理場が千五百名に対して一ヶ所あつただけでした。

④

其結果 朝食の第一番目の飯は夜半の十二時に

焚かれて、食物は一夜中持越される為の、朝にまると

~~新鮮~~新鮮ではなかつた。日本人は鮮魚、野菜、

数限りない他の御馳走を食べてゐた。

~~...~~

宿泊

設備の如きものはとんを ~~...~~ あつたか——

英兵は原地民捕虜を收容する為、木造小屋

を建てた。針金は ~~...~~ 約二百五十名の

原地民 ~~...~~ 張り廻ぐらされた。英兵の建てた

小屋は下見板張りであつて、将校の宿舎設備として

使用された。日本兵は下士官及兵卒 ~~...~~

~~...~~と建た。将校は一小屋に三十名住った。小屋は三つの

寢室に引切られておた。各寢室は15' x 20'の廣さで十名の

将校が宿泊した。部下は一小屋に四十五名から五十名收る

された。此の小屋も我々のよりは <sup>初めは</sup> ~~...~~ 積々 少く三つの寢室に引切ら

れこのたが、後に引きりは取除かれた。

部屋は清潔であつたが、それとも ~~...~~ 害蟲が九ヶ居多カ。

中や鼠がウヨクして居た。 ~~...~~ 一夜に

百匹捕えりのは容易な事であつた。

此れは <sup>スル</sup> 日本人から何か ~~...~~ 受けたか

全然 ~~...~~ 二、三は油を入りして処分したが

それは ~~...~~ 中承知の由り

⑥ 同等の虫と木造家屋より根絶する事は困難であった。

水の供給はほとんどなかったが――

水の供給は戦争勃発前英国の統治の下に二百五十名

から三百名に對する供給を行つて来た。日本の行政によつてか

らは十五名に對する水の供給も~~も~~行はせられた。

其の結果 水は非常な制限も~~も~~又煮沸

しなければ飲用水にはなす~~も~~な~~か~~た。水は常に割當て

られた~~も~~其の設備の維持が~~も~~統制の下に間接的

に~~も~~なつた事であった。

日本は~~も~~兵隊の~~も~~軍需の~~も~~供給の~~も~~統制の下に間接的

に~~も~~なつた事であった。我軍附の技師等が少量を所持





他の医師は居るから、  
「コウトリヤ」生協の「ハインズ大健」(Capt. Hyne) 同族  
に括弧。

~~軍医の建師である~~ 医師を雇うから、  
の医師は居るから、

民間人、~~事務~~ 一 英領北ボルネオの 軍醫「デューター」

出身  
「同族」

「テイラー」博士 (Dr. D.P. Taylor) 同族 君「トニ」大學生

が天。 彼ら他ノ民間人ノ残留者ト共ニ抑留サレ

解放サレテ 帰入ラレタリ

宣誓 彼ノ病院ニ 五口々の探偵組織

報告

(Espionage System) ノ努力ニヨリテ 週刊 雑誌

受けて居る 通信

~~雑誌~~ 毛開設サレ 彼レノ 知カ 本林林

ニマカシ

部隊ニ手配ミテ 置クヲ 運轉ヲ 使ツテ M 及 B

小量

薬剤、ビタミン B1 錠、ヨード、及以外科用品ヲ 送付

員、を 送レヨ

これは昔に送って持たせられたもの。  
其れに秘密に

一 然り

ニ H. J. 大佐 (Col. Sheppard) 上」 J. H. J. 大佐

(Major Raymond) の母がニリンカ

必しもこれに送るに必要か?

に援けてはくれぬかと請はる。

我々 ~~は~~ 彼等が ~~他~~ 他ノ方法ニヨリテ ~~是~~ 是等ノ醫藥品ヲ入手

出来ぬものなり  
密かに彼等ヲ持ッテ行

ク必要 ~~は~~ 是らかりぬもの。然り。

其れを  
彼等ノ死物ヲヒニ必要トシテ居ルニシテ

其れが唯一の途に在りしものなり。

~~裁判官~~  
裁判官

日本兵ハ何カ醫藥界蔵品ヲ供給シタカ

供給シタカ

否。 ~~...~~ 思。 知ル限リテハ彼等ハ

供給シナカツタ

ステフエン)中佐 (Lt. Col. Stephens)ニ依ル

中佐(Stephens)の後に

~~...~~ 日本兵ハ何カ衛生 ~~...~~

管が 細道 作

我々自身ノ努力ニ依リ下水 ~~...~~ 細道 作 洗滌

や廢物を棄てる為

用ニ元 ~~...~~ 是は

は ~~...~~

貴

君ノ部下ハ如何ナル労働ニ從事シタカ

甚處(部隊)を移動せしめらるは日本軍の大飛

~~...~~

を ~~...~~

場ノ建設 ~~...~~

(11)

遠洲 兵 捕虜 其、飛行場建設ニ使サレタリ

一、然リ、殆ニトシテ遠洲、戦平捕虜ヲアリキ 彼等ガ

其、度如ク、又 其、是、働イテ、見ヨシ、私、自身、其、労働ヲミマシタ。

筋肉労働力 筋肉労働 然リ、牛仕事デシタ。最初ノハ、飛行場

手仕事カ、一、働イテ、牛ノ世話ヲ致シユク。

裁判官ニ依ル

シカ、毎時間、リ、ドウデアウタカ。

時間ハ、午前ハ、八時、午後、五時、マデ、デ、ヤ、ヤ、其、の、中

長時間労働 一時間、午前、午後、一回、ツツ

約十分間、休憩、サ、レ、タ、リ、人、次第、デ

苛酷、サ、ハ、ラ、通、シ、テ、一、定、ミ、テ、居、テ、

ステファニス中佐 (Lt. Col. Stephens) ニ、モ、ン、訊、問、

病人には健康な者と同じの給養が與へられたが。

藏からは樂に入らなかつた。然し、労働した者に対し

て加給金が與へられた時には、出来た傷は之と其の

場地の公平な分配した。然し、斯様なるか起るのを

防止する為に、即ち、労働に従事して居た者に與へられ

る日曜の大れ休り分は僅かに多くの程度の給養を受け

て居た病院患者に其の加給金進が與へられた

病人、労働した者には依り消費される給養量

島島は、飛行場を労働した者は、收容所

へ帰る前に、飛行場の料理をし、其處を食ふ

る程、と命じられた。

君の其所 間手紙ヲ書クヲカ

(一九四二年)

十二月廿一日 昭和十八年二月廿一日 葉書ヨリ書キマシムガ

其は尾に付りませぬ。

貴君ハ半残ヲ一度モ入手シナカッタカハ、一度モ入手シ

日本兵ニ対して 故禮ヲシナケレハナラナカッタカ

總テノ階級ノモノニ敬禮ニナケレハナリマシテシタ

其時 其者ハ未ダ 皆自分ノ衣服ヲ持ツテ居事ト思フガ

何にも持つて居なかつた。中には大分持つて居人も居た

大部がノ者ハ殆ド 非常ニシテ 擦り切れ居る

私ハ 一枚ノ短パンニ組、 足に角着るものを持つて居た

飛行場ニテ労働シテ居た者ハ 靴ヲ持ツテ居ら

深靴

る。

~~持て身持。~~ 初めは皆靴と持って居たが、昭和十七年

(一九四二年)十一月の第一回雨期後、酷い水と泥濘で、

ずつと沼澤の状態であつた為、靴は全く朽ち果て

~~しま~~ ~~は~~ ~~ま~~ ~~せ~~ ~~ん~~ ~~で~~ ~~し~~ ~~た~~

しま~~た~~たが、代り仕給されなかつた。整牛~~の~~

の皮が少量、~~軍~~ ~~用~~ ~~物~~ ~~の~~ ~~裏~~ ~~張~~ ~~修~~ ~~理~~ ~~用~~ に日本兵

に支給された。大部分は、上部に皮の紐を附けた下

駄を以て労働した。これも自分達の作ったもの

あり。

素足で労働したのもあった。

然り、相当数の者もさうであった。實際私の留守の終

り頃、二五%から三〇%の者が素足であった。

日本兵の補給に対する懲戒方法は如何。

個人的罪は体刑、然し重罪ニ關係スル罪は死刑ニ付ス

司令官ノ多ク志ニ付ス

食料配給ノ減量、酒保ノ閉鎖、~~其ノ他ノ~~ 南支官ノ懲罰

報復ニ付、ア、イ、ウ、エ

ハ、ト、ニ、ホ、ヘ、ア、イ、ウ、エ、カ、キ、ク、ケ、コ

内務部ノ刑罰部ニ付、~~其ノ他ノ~~

顔面ノ平手打、靴ヲ蹴ル、棒ヲ強打ス、~~飛行場~~

監視兵ノ殆布全部、長サ四呎六吋、太サ~~一寸乃至一寸半~~

棍棒ヲ持ツテ、~~其ノ他ノ~~ ソノ目的ニ付、~~其ノ他ノ~~ 使用ス

強打ハ屢々行ハレタカ、~~然リ~~

行ハレタカ、~~然リ~~ 殆んど毎日テス、~~其ノ他ノ~~

誰カ強打サレ、~~其ノ他ノ~~ 誰カ強打サレ、~~其ノ他ノ~~ 見タカ、~~其ノ他ノ~~

誰カ、~~其ノ他ノ~~ 誰ニヨリテ強打サレ、~~其ノ他ノ~~ 見タカ、~~其ノ他ノ~~



~~私ハ昨日~~ 振略ニ就テ申上リタルダーリングトン (Dorlington)

~~我々ノ中~~ テ恐ラク最モ劇シク強打サレタルダーリングトンニ就

~~トキ~~ 者ニ課セヨリタルガ凡テ中ニ事ヲ一審田

テ昨日 概略申上ゲマシタ

トキ者打ギヤヤ

ステフエン中佐ニヨル (Lt. Col. STEPHENS)

人カ

~~打タル~~ 打タル見タカ ~~然シ~~ 打タル者ヲ後テ見

強打サレタ跡ヲ見マシタ

結果ヲ撰バ

官氏名ハ何デアツタカ

~~彼ノ~~ 詳細ニ就テ如何ナリ

二聯隊十八大隊所屬

~~第一~~ X 四九三二五 二等兵 ダーリングトン・セー

五四年

~~由~~ 何時其ノ強打が行ハレタカ 昭和十八年 二月十九日

中負

~~由~~ 君が見タ時 夕リニトシテ 状態ハドンナデアツタカ

~~第一~~ 私ハ見タ所テハ 両腕ハ折

意識不明

(14)

頭、顔、腕、脚部から出血して居る、勿論彼へ歩行困難

ケミセンチシカ

P.P.

彼ハ檻ニ入レテ居カ。檻内ニ彼ヲ見ル

審

檻内

彼ヲ見ル

私が審見タ時こ

檻内

縛ラレテ

居

居

裁判官ニヨル

トニ十檻カ、五呎、木製ノ

長さ二幅四呎

檻 如上ヨリニ呎大吋高ク建テラレテ居リ

周圍ノ木製ノ

横木デ圍ミ

木ノ屋根ガ付

和

注意不十分ニハ此ノ檻ニ入レラレタカ

審ソウテス

ステラエ中佐ニヨル  
ハ生残ツタカ。答ハ生残リヌカ

18

普通

永

トノ位更ク檻ノ内ニ入ラレテ

オニスノハ

其レ以上、私ノ知ラテオシハ一週間テ

裁判官ニヨル

彼ノ名極キカキテ由リタリニケトシハ檻ノ中ニドノ位永ク

居ツタカ一筆ノタタ二十四時間アリテ二十四時由経ツ外

宝島兵ニ逮捕サレタ。私ガ後ニ宝島兵ニ逮捕サレル

ニセシテマカ

是彼ヲ雨ヒ見

ステアエニ中佐ニヨル其ノ檻ハ屢々使用サレタカ

嘗屢々使用サレタ。十三月間ニ檻ハ十二回カ

十四回使用サレタト思フガ、其ノ数ハ確テ

其ノ檻ノ内ニ一度ニ何人位居ヤカ一或ル時十ト

其ノ處ニ四人カ五人居マシテ少クトモ四人ハ



②0 見マシタ  
知ハ部下ニ情報ヲ得ル為ニ無線電信機ヲ操作

シテ居ウタケ 自分ノ部屋ニ早朝歩ムテ帰ッテ末ルコトガ辱

タアリマシタ 数回 夜半 一時以 其処ニ起立

シテ居ルノヲ見来コトヲ知

申其志ニハ 彼等ヲ監視シテ居ル衛兵ガ居ルカ

答直接ニハ居ナカシタ 彼等ハ非番監視兵ノ休憩ニテ居ル監

視兵室ノ前ニ起タサシ居タノデアリ 絶エズ 彼等ハ監視

ノ下ニ置カレレテ井タノテアリマス。

申檻中其他ノ事柄ニ関シ日本軍將校ニ苦情ヲ申セタカ

申出テマシタ。

申君ニ何カ申立テタカ 申立マシタ

(2)

誰に對してか、~~知~~部下 ~~...~~ 彼等、

「ホジニニ對して」が要、おそれる。

支給されて居る 僅少なる 配給、履物、問題、衣料、支給

二親、直接 ~~...~~ 苦情を申上る ~~...~~

~~...~~ 戦争法規 = 自ら 論議をタカ、  
「抑約及」

~~...~~ 然り、私に彼ら 国際協商 及び 其が我々ニ對し 通用せん

軍ニ就テ 議論 ~~...~~

~~...~~ 彼の何ニト答へタカ、  
彼の 国際法規ニ、興味 ~~...~~

吾々の 日本帝國 軍人ノ 一員 ~~...~~ 日本軍規ニ 従フテ

取扱ヒ又 處罰ヲ 行フノガト 答へ ~~...~~

他ニ誰シカ 彼ニ 苦情ヲ ~~...~~ フレタミシガ 少佐

(Major Fleming) ~~...~~ ウォルニエ 大佐 及び シエハート

エヌ、エム、オー 大佐の辱々苦情ヲ申込奉るマシ  
申上ケルナリ

忘レタカハアリマスガ、  
2/26 クイニスラント大庭、  
コト付スル

「~~私ハ善考ヲ知リモシ~~」  
「~~コト付スル~~」  
「~~打ニ付テテ~~」  
「~~取~~」

「~~テイ中尉~~」  
「~~知リマセンガ~~」  
「~~行政ニ執イテ~~」  
「~~知ヲ推助シテ~~」

彼ハ昭和十七年十月ニ森林部隊ノ  
指揮ヲ承ルル事ニ  
居タ、  
彼ト私ノ作業隊ノ部下ヲ  
指揮

拍子ヲ、  
彼ハ常歸ヲ命セラルタ、  
知ハ、  
彼ニ拒絶スル様ニ忠告

シ、  
知モ亦  
拒絶シタ、  
彼ハ、  
監視兵ノ  
直クニ居タリテ

木ノ棒デ刺シテ擲  
此ノ件ニ就テ  
ウオルニユ大佐ハ

「ホムンニ」  
直接 畢ルニ  
苦情ヲ申込奉るマシ

須賀大佐ニモ  
苦情ヲ申込奉ル  
然リヨ

大佐ハ  
私カ其所ニ居タ  
十三月ノ間  
三、四回  
サンカカン

大佐ハ  
私カ其所ニ居タ  
十三月ノ間  
三、四回  
サンカカン

マニタ。

内科

ヲ訪レ申 其ノ都度 醜態 生活状態 国籍法ニ由ルニ苦情

マニタカソレニ

将存ノ後 後問題ニ関シテ 苦情ヲ申上ルル 其日對シテ 彼ハ堂々

「其レハ私ノ 命々ガ」ト答ヘタルヲマニタ。

裁判長殿ニ

又書キ上ルル。 信箋手「マッケンギー」及ビ「ハマハエ」(Mackenzie)

一九〇五年

and Harvey)ノ死ニ関シテ 話サレ度シ — 昭和十八年 五月八日

「ダブリー、ウォレス」(W. Wallace) 曹長ガ 濠洲カハ 通信師團

ノ通信兵「マッケンギー」及ビ「ハマハエ」ト 逃セシ事。 昭和十八年

樹上ニ 斗心ト云フ

五月十一日頃 樹上ニ マッケンギー 及ビ ハーグエーハ 日本監視兵ニ

死見サレ、其ノ場ヲ 射殺サレタルヲ知

此件ハ 君ニ 報告サレタカ —

情報將校ハ スコーエ、ゴエーアズ

中尉 (Lt. Pascoe Pearce) ニヨリ 知ル 報告サレタ 彼ハ 今年ノ



七月ニ死亡シタ 彼ノ所属部隊ハ 濠洲軍歩兵第四対戦車

聯隊ヲアサリトシテ

裁判長ニヨリ

彼等 彼ノ殺害セシタカークラエ 發ノ辭ニ

射殺セシタ マッケンゲルヲ殺スニハ 三四発 要ミタ

ステラフェニ中佐ニヨリ 逃セシキ 投獄ヲ宣告セシタカーク

刑リ。

裁判長ニヨリ

捕虜トシテ 歸還スナカク

タカーク 彼ノ我々ノ 監視團體 (Espionage organization)

ヲ過ジテ 濠洲ニ 歸ル

其後

ステラフェニ中佐ニヨリ 十三名が逃セシキ 逮捕

ヲ最長トスル

サレタノハ 本當カーク 本當デハ 彼等ハ 六年間 種々

期間ノ徴役ノ判然ト見ユ

ニルセリコトヲ

此等ノ者ガ ~~...~~ 路獄舎

テ見タコトガアウタカ ~~...~~ 除身見マニタ

彼等ノ總テ ~~...~~ 於テ裁判サレタノカ

ニ ~~...~~ 逮捕 ~~...~~ 裁判

一九四三年

ニ就テ 話セ ~~...~~ 昭和十八年七月二十二日

知ハ 昭和十八年七月二十四日 ~~...~~ 昭和

十八年七月二十九日 ~~...~~ 兵隊本部

ニ ~~...~~ 訊問 ~~...~~

知ハ ~~...~~ 地下

ニ 二十四時間 ~~...~~ 禁サレタ

囚人共が

夜ハ

一日二十四時間

燈火見昭サシテ監視

後ニソノ室ニ居リマシタ。ソレハ地下室

獨居ノ三週間程

リ其ノ様ゴト何事ヲモ行ハシテ様ニト絶エズ監視ノ下ニ

過シテカラノコトテアリニス。 確カ一日。米五オニス

一食ハ 又ハ コツポ

ノ四分三位ノ米ト 動物が食バル様ナ岩塩ト干魚

ノ頭ヲ 常ニ川魚ノ頭ヲシタ。岩塩デモ 魚ノ頭テモ

量ハ十寸中ノ量ヲ過エルニハナカシタ。洗濯ハ監視員ノ勝手

ノ計ヒニヨリ辞サレタ。食事ハ手摺ミテ喰バシ。サカシコシタ。 4リ紙ノ

衣類寢具ハ、和カ其處ニ居タ 三週間着用

シタ 一對、白短ハシツノ他ハ何モ配給サレカ

西履物ハ許サレナカ

貴君ハ初期ハ獨房ニ居タノカ 一最初ノ三週間程

貴君ハ此ノ三週間ニ訊問ヲ受ケタカ

受ケマシタ

情報ヲ引キ出シ

試ミル場合ノ方法ハ

体刑ト 鞭ヲ強打マズル 拷問テアリマシタ

貴君ハ 鞭ヲ打タレタカ 然リ 木刀ヲ打タレタ

和ハニ、三度木刀ヲ打タレタ 部製ノ拷問具モ亦使用サレタ

私ハ千錠ヲハメラレ 垂木ニ縛サレ 足ハ他ノ欄ノ上ニ擴ゲテレ

四時 ~~角ニ~~ 長サ、一本、每木ハ 踵ト踵ノ間ヲ通シテ置

Primer.

膝ト膝ノ間ニ他ノ長イ木ガ擴ゲラシテ

訊問 ~~士官ガ~~ 膝ノ上ノ ~~木~~ 兩端ノ上ニ立ツテ 絶エズ重

壓ヲ加ヘテ上下運動ヲ加ヘテ

ソレテ

此君自身 苦シメラレタカシ 其ノ効果ハ 兩腕又ハ

兩脚 ~~ヲ~~ 横ニ ~~植~~ 榎木ヲ用テ 兩端ノ上ニ 踵ヲ横ニ

定ノ前部ヲ土ニツケテ 膝ヲマケサスコトニテ 兩腕

地ニ貴方定キ強引ニ 膝關節ヲ引キ離シテ強ク

又ハ兩脚ヲ引キ擴ゲテ 踵ノ骨ヲ折ラハカリニスルノ

踵關節部ガ 榎木ハ出果ニスニアリマス。 是ニヨリテ

踵カク肉ヲ引裂クノテアリマス。

後名譽長ニヨル

其ハ甚痛ニアツタカ、一知、非常ナ苦痛

裁判長ニヨル

絶エラレス

テミル。 和ハ ~~推~~ 僅カニ移ニカ ~~生~~ 心 ~~氣~~ 其後ハ

リマシタ。

意識不明ニナリ、 頭カラ水ヲ一杯カケラレテ



裁判長ヨリ

~~裁判長ヨリ~~

其ノ刑罰ヲ実行シタノハ誰シカ

葛西博士官デシタ

ステフェンス申佐ヨリ

君ハ米ノ拷問ヲ受ケタカ



一九四三年

昭和十八年八月十六日一定日里ノ玄米ヲ全部食バサセラレタ後ニ



喉ニ管ヲ入レテ水ヲ充滿サタ

其ノ結果ハ約四時

間ニステフェンス米カ水分ヲ吸收シタ事胃ノ筋肉ハ異状ニ膨張

ニ擴大スセシメタ

裁判長ヨリ

貴君ハ病氣ニシタカハ是ハ偏強的デパートが

毛便通ガナカクテアリス、是ハ

私ハ捕逮セレテカクニ十六日間運動セシメタ

食料

神経作用ト睡眠不足ト打擲ノ為メテ

答ニ込マセタ

此ノ米ヲ胃袋ニ投シテ後三時間ニ雨ハ吐去ソウト

試み...  
ヤカ見...

水浸...  
少量吐出...

成可...  
其、残りハ...  
他...  
腸...

相...  
物...  
取...  
出...

エナケレ...  
知ハ医師...  
洋書...  
要求...

サレタ...  
約一週間...  
後...

ステフエニス中...  
君...  
其...  
三ヶ月...

昭和十八年十月二十五日...  
其日...  
マ...

テイラー博士...  
数人ト一...  
積ミ換...

我々ハ...  
昭和十八年十月二日...  
到着...

獄舎ニ入...

裁判官...  
君ハア、様ニ坐ルコトヲ強制サレタカ...







五ヶ月間 審問 行ハル 此ノ 訊問 期間 審問 官 兼 行ハル

何等ノ 審問 官 兼 行ハル 審問 官 兼 行ハル 審問 官 兼 行ハル

陳由書ニ就テ 質問ヲ受ケル 然レシ 吾々ヲ 監視シテ居タ

S. S. 軍隊

海軍 審問 官 兼 行ハル 僅少ノ 及 別ニ 刑 罰 課 サレ

五月後 審問 官 兼 行ハル 裁判ニ 付セラレタノカ 然レシ 吾々 昭和十九年

二月二十九日ニ 裁判 官 兼 行ハル 付セラレタノカ

軍法裁判ノ 裁判長ニ 誰レシ アツタカ 馬場 中將 テア

其他ノ 裁判 官 兼 行ハル 構成員ノ 姓名ハ 目下 記憶ニ 付

コトハ 未ダ 其 中ニ 訊問 將校 少佐 一名

檢事 將校 少佐 一名 ト 大尉 一名 裁判書記 下士官

一名 及 英 和 通譯 一名

裁判長

被告は... 責任者... 辯護士... 與へられ...

否、與へられ...

起訴状... 與へられ...

起訴... 起訴... 起訴...

質問... 裁判... 證據... 考慮...

後... 判決... 知ら...

以内... マア... 及... 三人... 下士官及兵卒...

刑ノ言ヒ... マー... 四十八時間...

未決... 取得... 其ノ四十八時間... 死刑ノ宣告...

待... 昭和十九年... 三月二日

南... マー... 三人ノ下士官及兵卒ハ法廷ニ

居多カ一 續行セシタ 尋問ニヨリ 其等ノ大西其ハ 諭ウタガ

諭

彼等ハ 實際ニハ 吾々ニ 讀ミ上ゲテ 吳レナシ

中野君

書等ガ 署名ナシ 前ニ 辭譯

裁判長

中野君

罪科ガ 何ンデ アワタリ 知ラナカ

至

中野君カ

有罪デアワタリ 不知カラ 知ラナカ

ステフエンス 中佐ニヨル

サンタカニ

於テ 却下シタ 日本語ヲ

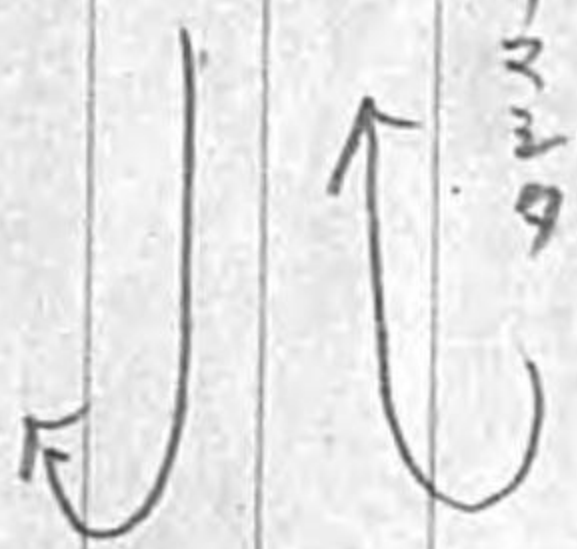
書取ツタ 陳述書

起訴状ハ 其後 裁判所 馬場中將ニ 提出サレタノカ

一 然

其君道ハ 其ニ就テ 訊問ヲ 受ケタカ

ドニナ風ニ 行ハレタカ 一例ヲ 與テ ヲマス



ソノ言葉ヲ少シ知ツテハ...

譯學ヲ素養ナシトモテ言ハレタ中テ或ル事ハ

分リコトナク

了解ナキナリト通譯者英語テ質問サレタ

私ハ「違ヒマス、事案ソウデハナト

私ハ彼が裁判官ニ日本語テ「知ラゲス、事案其通りデス」

ト返事ヲスルノヲ聞ク、キコゾク

裁判長ニ云ル

君ト一緒ニ裁カレタカク然リ

中君ハ「マニエース」裁判中始終其先ニ居ツタカク居リマエタ

彼ハ彼が

君ハ彼がドニナ事ヲ起訴サレタカク知ツテ居タカク否

罪名ヲ知ラセラレルコトヲ要求ス

彼ハ罪名ニ就テ質問シタカク然リ

彼ハ辯護士請問者ヲ要請シタカク然リ

両者共ニ却下セタカク然リ



我々の否認、考慮ニ入レシカキ、  
我々の單に憲法ニヨリテ

書キ上ゲラシタ 證據ニヨリ、  
我々の否認シヨウガ

係ナク、

~~領事~~ 裁カシタ、マシカ

執行

「マニニユース」死刑ヲ宣告サレタ、其の宣告ガ遂行

サレタカ、~~トシナ~~方法、何時、~~行ハレタ~~カ、知ツテオシカ、

私が最善~~ト~~限リテハ、  
昭和十九年三月二日

午前十一時頃、~~テ~~テカ、

裁判長ニヨリ、  
有罪ト決ミテ、~~後~~位、~~經~~テカ、

刑ノ宣告後、約一時間デシタ、  
中庭

馬場ニヨツテカ、  
然リ

最後ニ見タ時ハ

ステフェンス中佐ニ係リ、  
「マニニユース」大尉ヲ最後ト會フタ





處刑サレタト信ジマス。

中野君ハソノ方ヨリカウ銃聲ノ来ルノヲ聞ケタリカ。

~~其ノ場所テ~~ 射撃ヲ行ハレル他ノ理由ガアツタカ。

然リ。

其ノ場所テ ~~銃聲ガ行ハルカ~~ 然リ。

八人 本地民 <sup>位モホ</sup> 團體及ビ 裁判ニ関係ニテ 其ノ朝 處刑

歐亞人ノ混血兒デアリマシキ。

サレマシタ。其ノ中ノ 三人ハ 予テモカ 民族ガミタ

貴君ハ ~~ソ~~ 見 <sup>タリ</sup> 又ハ 其 <sup>ソ</sup> 就テ 聞イタ <sup>カ</sup> ~~事ハ~~ ~~ヤ~~ ~~カ~~ ~~リ~~

彼等ハ 吾々が 宣告サレ <sup>ル</sup> 前ニ 宣告ヲ受ケ <sup>ル</sup> 彼等ハ

銃殺ヲ 宣告サレタト 我々は 報 <sup>知</sup> せマシタ。 日本人カテノ 情

報 ~~マシタ~~ <sup>ノ</sup> 因リ 彼等ハ 「マニニユース」ガ 處刑サレタ <sup>ル</sup> 十五分カ

三十分 <sup>前</sup> 程ニ 刀 劔デ 殺サレ <sup>タ</sup> ~~ル~~ ~~カ~~ ~~リ~~

貴君ハ 死刑ヲ 宣告サレタノ デアツタカ <sup>リ</sup> 至 重 労働 ~~ヲ~~

十二年ノ



軍醫將校ヲテラリ博シハ、彼、死ハ全ク、日本人ノ怠慢

ト彼等<sup>ノ</sup>打擲ニヨルモ、ガト<sup>ト</sup>言フ<sup>ル</sup>ニ<sup>シ</sup>テ<sup>モ</sup>云々

RODERICK GRAHAM WELLS.

I am VX 14024 Lieut. Roderick Graham Wells, 6 Div. Signals. I became a prisoner of war at Singapore on 15 February 1942. On 8 July 1942 I embarked with Col. Walsh as part of "B" Force. I then moved by ship to Sandakan, arriving at Sandakan on 18 July 1942.

.....

At Sandakan you went to 8 mile Camp?---Yes, after one evening. We spent that evening at an R.C. Missionary House. We disembarked about six o'clock in the evening and slept the evening at that R.C. Missionary House. We moved off the next morning. I was at Sandakan Camp until 24 July 1943, just over a year.

.....

Approximately how many men were at that camp?---The Force of which I was a member consisted of about 1,490 men. Before I left the camp strength had increased to about 2,500. That included the 500 English who arrived early in 1943 and 500 A.I.F. known as "F" Force who arrived from Singapore in April.

.....

During your 12 months there how many deaths occurred?---About 32 or 33.

What from?---Malnutrition and dysentery. That includes beri beri, pelagra and things like that.

.....

Were you in a position to compare the rations your men were getting with the rations the Japanese soldiers were getting?---Yes, as officer-in-charge of the wood party, I used to eat my meals with the guards I was working under. After issuing meals to my own men, I used to eat mine with the guards. They had infinitely more. The rice was of a better quality and they had more of it. The cooking for the Japanese was much better. We had to improvise to cook our own food. We had only one small cook house for 1500 men, with the result that the first rice for the morning meal was cooked about 12 o'clock at night, and the cooks kept turning it out right through the night, with the result that it was not very fresh in the morning. The Japanese got fish, vegetables, and numerous other delicacies which were denied to us.

What was the accommodation like?---The English built wooden huts for the purpose of putting native prisoners there and the wire enclosed in area made for about 250 natives. The huts which the English erected were of weatherboards and they were used for the accommodation of the officers. The Japanese built attap huts for the accommodation of the other ranks. The officers lived 30 officers to a hut. The huts were divided into three cubicles. Each cubicle would be about 15' x 20' and accommodated 10 officers. The men were put 45 to 50 in a hut. The huts were originally divided into three cubicles, a little smaller than ours, but later on the partitions were removed.

Were the quarters clean or vermin infested?---Absolutely alive with bugs and a number of lice. You could catch up to 100 a night without any trouble.

Were you given anything by the Japanese to deal with them?---Nothing at all. We managed to get some oil once or twice, but that was only through our own efforts. As you know, it is rather difficult to get these insects out of a wooden building.

What was the water supply?---The water supply was put in by the English Administration before the outbreak of war to supply water for about 250 to

R.G. Wells. (Cont.)

300 men. It was being called upon to supply water for 1500 men under Japanese administration. The result was that the water was very limited and was not drinkable unless it was boiled. Water was rationed always and if it had not been for the maintenance of the equipment indirectly under my control, the supply would have been pretty hopeless.

Did the Japanese supply you with any tools?---None whatever. The engineers with the Force brought a limited number with them and the natives who were working with some of our men on the maintenance of supply and electrical installations also brought out equipment. I have known instances of natives bringing out their own wrenches and hammers to help our men keep the water and electrical services in order.

What about clothing?---No clothing was issued by the Japanese until I left.

Did the Japanese give you much in the way of medical supplies?---As far as I know, nothing, but I am not sure. They may have issued a limited quantity of quinine.

Is there any other doctor who was there and who could give evidence about that?---Capt. Hynes, a Victorian, was there at the time.

A civilian?---The senior medical officer of British North Borneo, Dr. D.P. Taylor. He is a Sydney University man. He was not interned with the remainder of the civilians, but was put on parole in his hospital and through the efforts of our Espionage system was supplied with weekly bulletins. Communication was established and he sent in by the various subterfuges which I arranged on the wood party a small supply of M and B preparations, vitamin B1 tablets, iodine and other surgical supplies.

They were brought in surreptitiously by you?---Yes.

At the request of Col. Sheppard and Major Rayson?---Not exactly at their request. They asked if we could help them.

If they could have obtained these drugs in any other way, it would not have been necessary to bring them in surreptitiously?---No. They were desperately needed and that was the only avenue through which we could get them in.

BY HIS HONOUR: Did the Japanese supply any medical stores?---I do not think so. To the best of my knowledge, they did not.

BY LT. COL. STEPHENS: Did the Japanese do anything about hygiene for you?---Nothing whatever. Through our own efforts drains were put in, pathways made and holes dug for ablution, refuse and so on.

What work were your men employed on?---The object of moving the Force over there was to construct a big aerodrome for the Japanese Army.

Were Australian prisoners of war employed on building that aerodrome?---Yes, almost entirely Australian prisoners of war. I saw them working on it and I worked on it myself.

Manual labour?---Yes, manual labour, and in the early period looking after men working on the aerodrome.

R.G. Wells (cont.)

BY HIS HONOUR: What were the hours?---The hours were about from 8.30 until 5 o'clock, with about an hour for lunch; and often a small rest of about 10 minutes once in the morning and once in the afternoon. That depended, once again, on the individuals concerned. The harshness was not uniform over the 12 months.

.....

BY LT. COL. STEPHENS: Were the sick allowed the same rations as fit people? ---Not by the enemy, but when possible any additional rations issued for the men who worked were equally divided within the area, but in order to prevent that from happening, Hoshijimi ordered that those men who were working on the aerodrome were to cook and eat their mid-day meal, and later on the mid-day and evening meals, at the aerodrome before they proceeded home in order that the extra rations issued should be consumed by them and not given to the hospital patients who were on, I should say, little over half the normal worker's ration.

.....

Did you write any letters while there?---I wrote one card in December or January 1943, which never reached my wife.

Did you receive any letters at all?---None at all.

Did you have to salute all Japanese?---We had to salute all ranks.

.....

At that stage I suppose men had their own clothing?---A large number had almost nothing, and others had quite a bit. I had two shirts and two pairs of shorts, extremely badly worn but nevertheless wearable.

Did the men working on the aerodrome have boots?---No. In the beginning they all had them, but after the first wet season, in November 1942, the excessive water and mud, which was more or less a quagmire all the way out, absolutely rotted the boots off the men, and no replacements were issued. A small amount of Yak hide, I believe, was issued to the Nips to held in re-soling footwear being used by the men. A large number were working in wooden clogs with leather straps over them. They were made by themselves.

Were any working bare footed?---Yes, quite a large number; in fact, towards the end of my stay I should say 25% or 30% of the men were bare footed.

What was the method of enforcement of discipline by Japanese against prisoners of war?---Corporal punishment for individual offences, but for anything which involved everyone, a decrease in rations, closing of the canteen, and other reprisals at the will of the commander.

What did the corporal punishment consist of?---Face slapping, kicking with boots and hitting with sticks. Almost every guard on the aerodrome carried a wooden stick about 4 ft. 6 ins. long and about one to 1½ inches in diameter which was used only for that reason.

Was that beating frequent?---Yes.

A daily occurrence?---Yes; quite.

.....

R.G. wells (cont.)

Did you see any severe beatings?---Yes.

Of whom and by whom?---I gave an outline yesterday of probably the severest beating of the lot meted out to a man by the name of Darlington.

BY LT. COL. STEPHENS: Did you see the beating yourself?---No, but I saw the man afterwards and observed the results.

What were his particulars?---NX 49325 Private Darlington, J. of the 2/18 Battalion.

When did that beating take place?---on the 19th February 1943.

What was Darlington's condition when you saw him?---He had both his arms broken as far as I know, he was unconscious and bleeding from the head, face, arms and legs. Naturally, he was unable to walk.

Was he put into the cage?---Yes. I saw him in the cage. He was tied up in the cage when I saw him.

BY HIS HONOUR: What was this cage?---A wooden cage about 5 ft. by 4 ft. built up about 2 ft. 6 inches from the ground with wooden rails around it and a small atap roof.

.....

Was Darlington put in the cage while unconscious?---Yes.

BY LT. COL. STEPHENS: Did Darlington survive?---Yes.  
How long were men kept in the cage as a rule?---Up to a week or more; a week that I know of.

BY HIS HONOUR) How long was Darlington in the cage?---Only about 24 hours. At the end of that time he was arrested by the military police and we never saw him again until I was arrested by them later on.

BY LT. COL. STEPHENS: Was that cage used often?---I would say it was used frequently. During the 12 months it was used about 12 or 14 times I suppose; I would not be quite sure of that number.

How many men were in it at once?---At one period there were four or five; at least four.

.....

Do you know of any other cases of severe beating; did you see that of Sergeant Major Asgood?---He was with me on the wood party and was struck across the ear with the result that his right ear drum was broken.

What other kind of punishment did they impose; standing to attention?---Yes, for offences on individuals men were frequently stood in front of the guard room for periods of up to 24 hours; strictly to attention.

BY HIS HONOUR: You have seen them standing to attention for 24 hours?---Yes, your Honour.

That is a long period, is it not?---It is.



R.G. Wells (cont.)

BY LT. COL. STEPHENS: Have you seen them standing there at night?---Yes. I was operating a wireless set for the purpose of getting news to our own men, and I frequently walked back in the early hours of the morning to my own room, and on a number of occasions at one or two o'clock in the morning I had seen men standing up there.

Were there guards standing over them watching them?---Not directly. They were stood up in front of the guard room in which the guards off duty rested, which meant they were under their direct observation all the time.

Were complaints about the cage and other matters made to Japanese officers?  
---Yes.

Did you make any yourself?---Yes.

To whom?---I made direct complaints to Hoshijimi frequently on the work required of the men, and the low rations they were receiving, the question of footwear, and the issue of clothing.

Did you discuss with Hoshijimi the Conventions and the rules of war?---Yes. I discussed with him the International Convention and its application to us.

What was his reply?---That he was not interested in international law, that we were members of the Imperial Japanese Army and would be treated and punished in accordance with Japanese military laws.

.....

Who else made complaints to him; did Major Fleming?---Colonel Walsh and Colonel Sheppard, S.M.O., made frequent complaints. I have forgotten something. Your Honour - a flogging of a Lieutenant Day of the 2/26 Battalion of Queensland I do not know his number. He was assisting me in the administration of the wood party in October 1942. He was ordered to work, although he and I were supposed to be looking after the men on the work party. I asked him to refuse. I also refused, and he, being the closer to the guard, was severely hit with a stick of wood. Colonel Walsh complained direct to Hoshijimi about that.

.....

Were complaints made to Colonel Suga?---Yes. Colonel Suga visited Sandakan about three or four times during the 12 months I was there and on every occasion complaints were made to him about rations, living conditions, compliance with international law, and the question of officers working, to which he always replied, "It is my order".

.....

Tell His Honour what you know about the deaths of Signalmen McKenzie and Harvey.---On the 8th May 1943 Sergeant W. Wallace escaped with Signalmen McKenzie and Harvey, of Signals 8 Aust. Div. McKenzie and Harvey were seen by a tree on about the 11th May 1943 by Japanese guards and were shot on sight.

That was reported to you?---It was reported to me as an Intelligence Officer by Lt. Pascoe Pearce, who died in July of this year. His unit is the 4th Anti-tank Regiment R.A.A. *Royal Anti-Artillery*  
(*Dashū gun hechi*)

BY HIS HONOUR: Were they killed?---Harvey was shot outright on the first shot, but it took about three or four shots to kill McKenzie.

.....

R.G. Wells (cont.)

BY LT. COL. STEPHENS: Were men sentenced to imprisonment for escaping?---Yes.

BY HIS HONOUR: Wallace did not come back as a P.O.W.?---No, he got back to Australia through our Espionage organization.

BY LT. COL. STEPHENS: Is it correct that 13 men escaped and were arrested after their escape?---That is correct. They were sentenced to various terms of imprisonment, up to six years.

.....

You saw all those men afterwards at Outram Road Gaol serving their sentences?-- Yes, except Harrington.

Were they all tried on Borneo?---At Kuching.

.....

Will you tell the Commission the story of your arrest, together with Matthews, and your trial?---Matthews was arrested on 22 July 1943, I was arrested on 24 July 1943, and Lieut. Weynton was arrested on 29 July 1943. I was taken to Sandakan Military Police Headquarters, where I was interrogated.

In what way?---Matthews was confined with me in a cell under the house of the police station for about 24 hours, when he was removed to a room in the house in which prisoners were under observation for 24 hours a day with a light over them all night.

Were you in that room?---Later on, after spending 3 weeks in solitary confinement in the cell underneath where one was also under continual observation to ensure that no communication, writing or anything of that nature took place. The rations for the three months we were there, I should say, consisted of about 5 oz. of rice per day, issued in two meals. Each meal consisted of about half a cup or three quarters of a small cup of rice and a small piece of rock salt, such as is used for animals in Australia, or a dried fish head. It would be a small fish head. The volume of either the rock salt or the fish head would not exceed half a cubic inch. Washing was permitted only at the discretion of the guard. Meals were eaten with the hands. No toilet paper was issued. No clothing or bedding was issued, other than a pair of white shorts which I wore for the three weeks I was there. No footwear was permitted

You were for the first period in solitary confinement?---For the first three weeks.

Were you interrogated during those three weeks?---Yes, frequently. The methods of extracting or attempting to extract information were corporal punishment and torture which consisted of flogging with a whip.

Were you flogged with a whip?---Yes, and struck with a wooden sword. I was beaten up twice or three times with a wooden sword. An improvised rack machine was also used. I was handcuffed and roped to a rafter, while the legs were stretched out on the end of another rafter, with a piece of rafter about 4" square and about 6' long placed across the heels. While the other length of wood between the knees was stretched, one interrogating officer stood on either end of the rafter over the knees and exerted continuous pressure and a see-saw movement.

R.G. Wells (cont.)

You suffered that yourself?---The effect was to stretch your arms or legs and almost break the ankle bones, by making you kneel with the fore part of your foot on the ground, with the rafter across the ankles on each edge. It pulled all the flesh away from the ankle.

BY HIS HONOUR: Was it painful?---Yes, very painful. I survived it for only two minutes and then I went unconscious. I was awakened about a quarter of an hour later, by having a glass of water thrown over my head, when the interrogation was resumed.

And the torture?---Yes, but not that method. It consisted of being struck with a wooden stick, and a small hammer which was frequently used, as they explained, to revive one's memory. They would hit on the one place on the head continually with the small hammer.

Was that severe?---Yes.

Was it painful?---Very painful.

BY LT. COL. STEPHENS: Did you suffer any permanent injury from that beating? ---Yes, I have permanently lost the hearing in one ear through having the middle ear broken as a result of being hit with the rafter of wood across the head.

BY HIS HONOUR: Who administered that punishment?---The Kempei N.C.Os.  
\* \* \* \* \*

BY LT. COL. STEPHENS: Did you suffer the rice torture?---Yes. On 16 August 1943 I was made to consume a quantity of raw rice. They then administered a hose into my throat and filled the cavity with water. The result of that was that after about four hours the rice, as it absorbed the water, swelled and stretched the stomach muscles to an extraordinary degree.

BY HIS HONOUR: Did you feel sick?---This is incidental; I had not had a motion for 26 days after I had been arrested, mainly because of nervous reaction, the light rations and the floggings. After the administration of this rice I tried for about three hours to bring it up again. After that time I was successful in bringing up quite a bit of the soaked raw rice, the remainder of which went through the other way and pulled quite a large amount of my bowel out through the anus. I had to work that in with my own hands. I asked for medical attention, but was ignored. After about a week I managed to work it all back. It has not had any effect on me since.

BY LT. COL. STEPHENS: You were there for about three months?---Yes, until 25 October 1943. On that date I was trans-shipped with Matthews and a number of others, including Dr. Taylor, to Kuching. We arrived there on 2 November 1943 and were admitted to the Kuching gaol.  
\* \* \* \* \*

BY HIS HONOUR: You were compelled to sit that way?---Yes. All prisoners in the hands of the military police, while they were not being interrogated, were compelled to sit up with crossed legs from 7.30 in the morning until 10.30 at night.

BY LT. COL. STEPHENS: Did you suffer that yourself?---Yes.

R.G. Wells (cont.)

For how long?---Three months there, five months at Kuching and about 14½ months at Outram Road.

At Outram Road you had to sit up in that manner?---Yes, when we were not working, and then at night when we had completed work and had come home we had to sit up like that until 10 o'clock.

Were you allowed to lie down when you went to sleep?---Yes, provided that you slept in a certain way, and all the way through there was a light over you at night to ensure that you did not talk to anyone, converse or make signs or shisper to anyone.

Were you burnt with cigarettes?---Yes, on the elbows. That was during the interrogation at Sandakan in August, September and October 1943.

You were then transferred to Kuching. What were the conditions like on that journey?---We were handcuffed for almost all the time, and, if we were not, we were roped to the deck. It was a small S.S. coastal ship used by the British around Malaya. The rations were about the same as at the Military Police Station. We were exposed to the water, waves and so forth coming over the railings. We were tied on deck for the whole journey. The journey lasted from 25 October until 2 November. We had no cover during that journey day or night.

.....

Were you interrogated at Kuching?---Yes, at spasmodic intervals during the five months awaiting trial. No torture was indulged in by the Kempei during that interrogation. We were being questioned on the statements which had already been written out by the Military Police at Sandakan. Punishments, however, were inflicted for the least irregularities by the S.S. troops who were guarding us.

After five months you were tried?---Yes. We were tried on 29 February 1944.

Who was the President of that Court Martial?---Lieut.Gen. Baba. I do not know the names of the other members of the court, but I could recognise them. They were a Major, an interrogating officer, a Major and a Captain, prosecuting officers, a W.O.II, Court Clerk and an English-Japanese interpreter.

.....

BY HIS HONOUR: Were you given a defending officer?---No.

Were you given a statement of the charge?---No.

Have you ever been informed of the charge?---No. We were merely questioned on the statements made and informed that a sentence would be passed on us after the court had considered the evidence. Within half an hour everyone, with the exception of Matthews, myself, and three other ranks, everyone was sentenced. Matthews and I were left in suspense for 48 hours and informed during that 48 hours by the Kempei that we were awaiting death sentence. On the morning of 2 March 1944, Matthews, myself and three O.Rs. were marched into the court and the sentences were passed.

BY HIS HONOUR: Did you admit guilt?---No. We had to admit a few minor things, because of the evidence given by the natives, but the statement written by the Military Police was in most instances a deliberate misinterpretation of facts.

.....

R.G. Wells (cont.)

BY LT. COL. STEPHENS: Those statements were taken down by the police in Sandakan?---Yes.

They were written statements?---Yes, written in the first person.

Written in Japanese characters?---Yes.

Did you sign them?---We had to.

Did you know what was in them when you signed them?---From the questioning which had gone on, we realised the gist of them, but they were not actually read over to us.

Were they translated to you before you signed them?---No.

BY HIS HONOUR: You do not know what the charge was?---No.

You do not know whether you were guilty or not?---No.

BY LT. COL. STEPHENS: Those statements which were taken down at Sandakan and written out in Japanese characters were subsequently produced to the Court, Lt. Gen Baba?---Yes.

Were you asked questions about them?---Yes. I will give you an instance of what happened. Having the small knowledge of the language, I could understand some of the things that were being said. I was asked the question in English by the interpreter. I said, "No, that is not so." I heard him reply to the Court President in Japanese, "Yes, that is so".

. . . . .

BY HIS HONOUR: Was Matthews tried with you?---Yes.

Were you there throughout his trial?---Yes.

Did he know what he was charged with?---No.

Did he ask for the charge?---Yes.

Did he ask for defending counsel?---Yes.

Was he refused both?---Yes.

He was sentenced to death?---Yes.

You heard the sentence?---Yes.

Who pronounced it?---Lt. Gen. Baba.

BY LT. COL. STEPHENS: Who was the interpreter?---I do not know his name but I could recognise him again.

BY HIS HONOUR: Did he misrepresent anything Matthew said?---I do not know. I did not have a sufficiently wide knowledge of the language at that time. If he did not misinterpret what I said, it was obvious that they ignored any denial of facts that we made. They just glossed over them and went to the next question.

R.G. Wells (cont.)

Our denials were not taken into consideration. We were merely tried on the evidence which had been written out by the Military Police, irrespective of whether you denied the lot or not.

. . . . .

Matthews was sentenced to death; do you know if that sentence was carried out and if so how and when?---To the best of my belief it was carried out at approximately 1100 hours on the 2nd March 1944.

BY HIS HONOUR: How long after the conviction?---About an hour after the sentence was pronounced, Your Honour.

By Baba?---Yes.

BY LT. COL. STEPHENS: When did you last see Captain Matthews?---About 10 minutes before he was executed. I was with him right through the trial up to that time.

BY HIS HONOUR: What was the form of the execution?---As far as I know, he was shot, Your Honour. As I left the Court a firing squad of about eight was waiting for him.

Did you hear any shooting?---Yes, in the distance on my way down to the gaol.

Was it a single volley?---It was very difficult to say. I was either one or two miles away.

It was in the direction of the Court?---In the direction of an R.C. Cathedral about 100 yards from the Court. I believe he was executed behind the Cathedral.

That is where you heard the shots coming from?---Yes.

✓ Would there be any occasion for any other shooting there?---Yes. Eight natives were executed also on that morning in connection with the organisation and the trials, three of whom were Eurasians.

Did you see that or hear about it?---They were sentenced before we were sentenced, and they informed us they were sentenced to be shot and, on information from the Japanese only, they were executed by the sword about a quarter or half an hour before Matthews was executed.

You were sentenced to death, were you?---No, I was sentenced to 12 years penal servitude with hard labour.

BY LT. COL. STEPHENS: How much longer did you spend at Kuching before you went to Outram Road gaol, Singapore?---We left on the evening of the 8th March, which would be six days after we were tried.

. . . . .

BY HIS HONOUR: Have you covered everything you mentioned in the questionnaire? You have not told us anything about Keating, have you?---No, Your Honour.

What do you know about him?---Keating died at Kuching Gaol after approximately nine months of severe illness which the Japanese made practically no efforts to rectify, and Dr. Taylor, principal medical officer in British North Borneo, who was with him up to the time of his death, states that his death was due entirely to negligence and beatings imposed upon him by the Japanese.

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NO. 5054 IS ONE OF THOSE  
ASSIGNED A NUMBER FROM THE BLOCK OF NUMBERS GIVEN  
TO Mr. M. A. Norman WHO OBTAINED THIS DOCUMENT  
FROM: Legal Sec.

THE ORIGINAL DOCUMENT TO THE BEST OF OUR KNOWLEDGE IS:  
returned to source

M. A. Norman  
FILES UNIT  
Document Division